

1996年アメリカ総選挙キャンペーンの報道内容の研究

——大統領・議会・その他の選挙記事（ネブラスカ州
リンカーン・ジャーナル・スター紙）の特徴——

神 江 伸 介

目 次

はじめに

[I] データの構造

1. 段落単位ファイル

- (1) データの拡張
- (2) 新変数の設定
- (3) 記事位置
- (4) 候補者変換
- (5) 争点変換

2. 記事単位ファイル

- (1) 記事単位ファイルの構成
- (2) 作成方法
- (3) 変数の追加

[II] 利益集団

1. 公職と利益集団との関係
2. 利益集団と候補者との関係

[III] 公職別キャンペーンの特徴

1. 時系列変化の特色
2. 記事行数の決定因
 - (1) 公 職
 - (2) 候補者と争点

[IV] バイアス

1. 候補者別の報道量におけるバイアス

- (1) 大統領
 - (2) 上院
 - (3) 下院
 - 2. バイアスの原因
 - [V] 争点報道
 - 1. 争点報道の状況
 - 2. 候補者と争点との関係
 - (1) 大統領候補者
 - (2) 議会候補者
 - (3) 州・地方選挙候補者
 - 3. 競馬報道とアジェンダ
 - (1) 競馬報道
 - (2) 何が競馬報道を決めるか
 - (3) アジェンダ
- 要 約

はじめに

私は2年前に「1996年アメリカの上院選挙⁽¹⁾」をあらわしネブラスカの上院選挙を扱ったが、引き続き、データを全体に拡大し、また、段落単位のみならず記事単位に変換することにより、記事から見えるまた異なった風景から俯瞰することを可能とした。すなわち、選挙を、大統領、議会、州、地方選挙にまで拡大して、ネブラスカ地方の州民の選挙に関するメディア環境を明らかにするのが本稿の目的である。

[I] データの構造

データファイルは段落単位ファイルと記事単位ファイルの2種類である。段落単位ファイルは記事の1段落を1レコードとしたファイルで、記事単位ファイルは1記事全体を1レコードとしたファイルである。前者は、段落ごとに含まれる情報を正確に再現するために作成され、後者は記事全体を対象とした総記事行数、リード、写真、記事全体の種類・印象など段

落では表現できない総合的な記事の再現を目的として作成されたものである。

素データは次のような構成をとっている。

第一段落

月日	記事位置	記事番号	段落番号	段落行数	利益集 団1	利益集 団2	対象州	候補者1	好意・ 非好意
候補者2	好意・ 非好意	候補者3	好意・ 非好意	争点1	好意・ 非好意	争点2	好意・ 非好意	政党1	好意・ 非好意
政党2	好意・ 非好意	対象公職	見出し1	見出し2	ニュース ソース	記事種	写真	写真 サイズ	リード 行数
中央との 関係	中央との 関係対象								

第二段落以降は、「見出し1」以下は省略してコーディングした。

素データから段落単位ファイルと記事単位ファイルが以下に述べるようにプログラムの作成された。詳細は次のとおり。

1. 段落単位ファイル

(1) 素データの拡張

選挙学会発表時の上院選挙と大統領選挙にかぎられていた素データを、連邦レベルでは、立法記事と議会記事を含めて拡張し、地方レベルでは、州会選挙、郡理事選挙、市長選挙、各種自治体選挙も含めたデータにした。

その目的は、選挙期間中の全時期全記事を分析対象とすることにより、米選挙の全環境を新聞記事から再現するところにある。ファイル名は spall2. sav である。

(2) 新変数の設定

単一回答式にコーディングをされた変数を、各カテゴリーを各1の変数に変換し、それぞれが記事に登場するたびに段落行数を代入した。

利益集団に関しては [付録A] に示すような形でレコードされた。

(3) 記事位置

記事位置が文字型表示であったものを数値型に変換した⁽²⁾。たとえばB面の第1ページに掲載されている記事は[102]と表現される。数字が小さいほど、記事の扱いは重視されていることになる変数である。

(4) 候補者変換

候補者のカテゴリーを各構成行数毎の変数に変換した。度数の少ない候補者を「候補者たち」とする変数にまとめた⁽³⁾。

(5) 争点変換

領域別に争点を段落行数に変換した。[付録B]に各アイテムを示した。

2. 記事単位ファイル

(1) 記事単位ファイルの構成

このファイルは、段落単位ファイルのレコードを記事単位に編成し直したものである。即ち、段落行数は集計されて記事行数とし、利益集団、候補者、争点については、該当の段落行数を記事別に加算した値の変数となっている。利益集団、争点は、段落単位ファイルでは2回登場まで記録しており、候補者は3回の複数記録であるので、カテゴリーによっては重複した計算がなされているものもある。

ファイル名は、artclall.savである。

(2) 作成方法

1. 段落単位ファイルで、記事単位ファイルで残しておいていい変数を決定。
2. 段落単位ファイルの中から、記事単位ファイルで加算した行数を使う変数を決定。

これらの変数は利益集団、候補者、争点の3領域87個に上る。

計算方法は、次のとおり。

$$A_i = A_i + B_i + 1$$

$$\left\{ \begin{array}{l} A_i : \text{作業用ファイルの変数 (行数) } i=1\sim 87 \\ B_i : \text{結合ファイルの対応する変数 (行数)} \end{array} \right\}$$

30 ファイルの変数結合が終了したら、もとの変数名に戻しておく。

3. 全体の段落単位ファイルを段落一つずつのファイル計 30 に分割する。

4. 一番目のファイルを読み込み作業用ファイルとして、2 番目のファイルを変数結合ファイルとし、共通変数を 2 番目から落とし（これは自動）、加算変数を計算し 2 番目の加算変数を落とした上で、作業用ファイルを一番目のファイルに上書き保存する。

第 2 回目以降の作業は同様にして、1 回目の作業で保存されたファイルを読み出し、3 つ目の段落ファイルを読み出し、上の作業を繰り返す。

5. 変数結合の際のキー変数は、月日と記事番号を ID とした変数である。

ID=月×10000+日×100+記事番号

(3) 変数の追加

記事単位ファイルには、段落単位ファイルとは異なる記事全体の特性を表す変数が追加されている。それらは、記事種変数 (THEME)⁽⁴⁾、写真サイズ (PICSIZE)、リード行数 (LEAD)、中央との関連 (CNTR)、予選前と後のダミー変数、である。

〔II〕 利益集団

1. 利益集団と対象公職の関係

図表 II-1 では公職と利益集団のクロスを「合計」の出現度数の多い順に示してある(段落単位ファイル)。10 位までの順に見ると、メディア—政治家—地方政府集団—連邦政府関係—議会関係者—タバコ関連—候補者たち—裁判所・法曹—各種運動団体—財界である。

メディアは [付録 A] に見るように、大統領テレビ討論委員会、コメンテーター、メディア各社、ポルなど多様なものを含めてある。このアイテムでは図表に見るように大統領 (21%) と選挙 (28%) 記事にその多くが

図表II-1 選挙関連公職と利益集団

	大統領%	議会	州選挙	地方選挙	裁判	選挙	その他	合計
メディア	21.2	9.3	0.8	1.5	0.0	27.7	14.0	14.6
政治家	11.3	20.1	2.2	0.0	0.0	45.4	9.3	11.8
地方政府集団	3.4	5.1	52.8	29.4	0.6	13.6	7.9	8.1
連邦政府関係	16.7	3.2	0.2	0.0	0.0	0.0	4.3	8.1
議会関係者	7.0	18.8	0.0	0.0	0.8	0.0	4.4	7.8
タバコ関連	6.3	4.0	0.0	0.0	4.3	0.0	10.4	6.8
候補者たち	4.5	8.1	28.2	22.4	0.0	0.0	2.4	5.8
裁判所・法曹	3.0	3.2	0.0	0.0	52.2	8.6	5.8	4.7
各種運動団体	0.1	2.2	4.8	17.5	39.8	0.0	6.1	3.9
財界	1.7	4.5	6.1	1.9	0.0	0.0	2.9	2.9
人々	1.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	2.9
プロライフ	1.2	3.5	0.4	1.7	0.0	0.0	4.7	2.8
政党	3.1	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	2.2
ドール	5.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	2.1
国際・外国	3.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	2.0
教育関係者	0.3	0.0	0.9	20.3	0.0	0.0	3.0	1.7
少数派	1.6	0.5	0.0	0.0	2.3	3.7	2.5	1.6
各種職能団体	2.0	0.9	0.7	5.2	0.0	0.0	1.6	1.6
医師	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	1.5
プロチョイス	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	1.2
その他の集団	0.9	0.5	2.9	0.0	0.0	0.0	1.1	0.9
保守派	0.7	1.6	0.0	0.0	0.0	1.0	0.9	0.9
クリントン	1.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.8
ヘーゲル	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.7
各種団体	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.63
ネルソン	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5
進歩派	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5
選挙運動関連	0.4	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4
利益集団・ロビスト	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.3
労働	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
計	16,686	9,370	2,063	1,057	830	383	16,432	46,820

集中している。

政治家という項目は、英語で celebrities といわれる集団である。彼らには、著名政治家、俳優、スポーツ選手などが一括してある。元大統領のブッシュ、レーガン、俳優のチャールトンヘストン、などなど [付表A] に見るように実に多様である。彼らは主役となっている候補者を支持したり、批判したり、また候補者のほうからの支持的情報として引用されたりとさまざまな役割を果たす。選挙そのもので最も多く(45%)、次に議会選挙が多い(20%)。選挙記事で登場した例を挙げると、68年の反戦民主党大統領

領候補者がリンカーンを訪問したマクガバーンの場合、高齢でなお活発にリベラルな政策を訴えて選挙の雰囲気盛り上げる話題性を提供する役割を果たしたとおもえる(もっとも党派的な意味もあるが)。議会選挙で登場する場合は、ネルソンやヘーゲルを応援するために登場するという役割を果たしていると見てよい。ケリー、エクソンなどは候補者のアイテムではなくこの政治家でコードしてあるわけで、まさしくネルソン応援という機能を果たしているといえる。

第3位の地方政府集団には、州・郡の役職が主体である。この項目は文字どおり州選挙地方選挙で占められている。選挙で登場するこの集団は、主に選挙啓発関係⁽⁷⁾である。

第4位の連邦政府関係は、ホワイトハウス、連邦政府各省が主体である。大統領選挙でこれが多く、その下の候補者運動組織でドール関係者が5%と与党のクリントン2%と差があるところを見ると、大統領のキャンペーンに連邦政府が関わって候補者の運動の代弁をしていたことが想像できる。実際のところそうであった。

第5位の議会関係者に議会が多い(19%)ことは説明を要しないであろう。大統領選挙にこの集団があまり関わらない(7%)のは、96年選挙でも顕著であった大統領選挙と議会選挙の離反傾向を示している。

第6位のタバコ関連集団は、社会問題の中でクリントンがもっとも力を入れた対策の一つである。「タバコは害がない」とするドールの発言をきっかけとして選挙途中でタバコ献金の問題が顕在化した。またクリントン陣営は南部のタバコ栽培業者を懐柔しなければならなかった⁽⁸⁾。

第7位の候補者たちは著名でない候補者たち関連集団をまとめた項目である。候補者本人であったり、参謀であったりしたが、議会、州・地方選挙での登場が主体である。

第8位の裁判所・法曹は当然にも裁判関連記事に集中して登場する(52%)。選挙でも登場するが(8%)、住民投票案件の署名などの争い等⁽⁹⁾に関係していた。

第9位の各種運動団体には、直接請求運動集団、ゲイ支持・反対派、婦人投票者連合、任期制限連合等々国政地方問わず実に多様な集団が含まれている。これらも州・地方選挙以下に関わることが多いようだ。

第10位の財界は議会（5%）・州選挙（6%）にウエイトが大きい。

2. 利益集団と候補者との関係

次に特定の利益集団と特定の候補者が偏って関わっていないかどうかを調べる（記事単位ファイル利用）。

図表II-2によると、特に相関が強い候補者はあまりいないが、強いて言うとお統領候補者の場合、クリントンがタバコ関連と自分の運動組織との関わりが強く、ドールは自分の運動組織とクリントンの運動組織、それにメディアとの関係が深い。即ち、メディアの注目を受けていたのはクリントンではなくドールであった。

上院選挙ではヘーゲルが自己とヘーゲルの運動組織と関わりが深い。ネルソンも自己の組織と各種職能団体との関係が深い。彼の団体との関わりは、財産税に関わってネブラスカの農民とさらに財産税を押さえることにより影響を受けた教育団体との関係が現れている。

〔III〕 公職別キャンペーンの特徴

1. 時系列変化の特色

時系列の変化について、図表III-1によると、大統領は予選期間、党大会期間、テレビ討論期間の3つに記事が集中する山がある（本章は段落別データの分析を中心とする）。

図表III-2によると、議会（上院・下院）は、2月末と3月一杯、5月の予選前、7月初旬から8月初旬、9月のレーバーデー以降の本選挙期間に記事の集中の山が見られる。

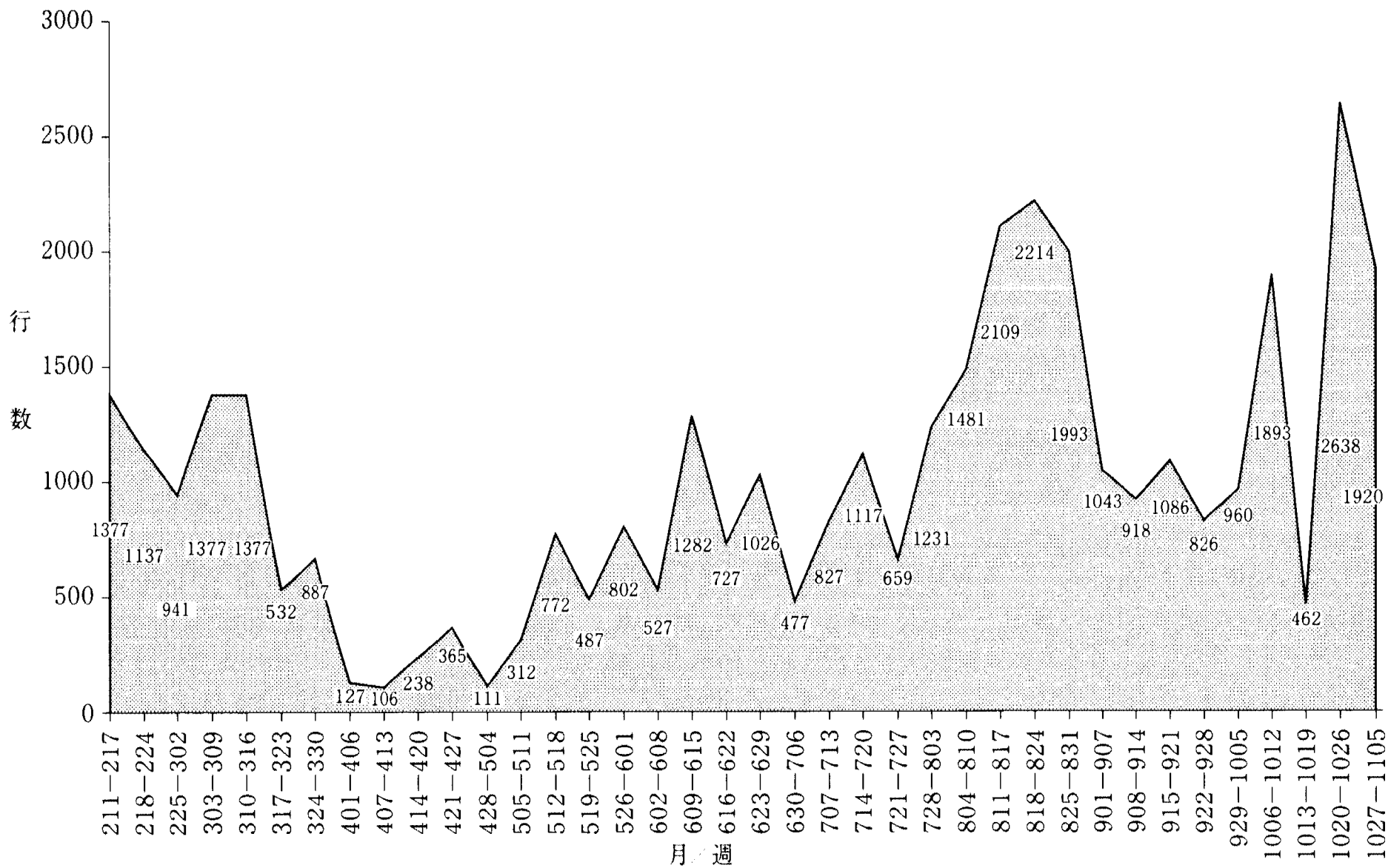
州選挙（図表III-3）は、2月から3月中旬までと、5月の予選前後、9月の下旬から投票日まで、断片的な山が見られる。

図表II-2 候補者と利益集団の相関関数 (Pearson's r)

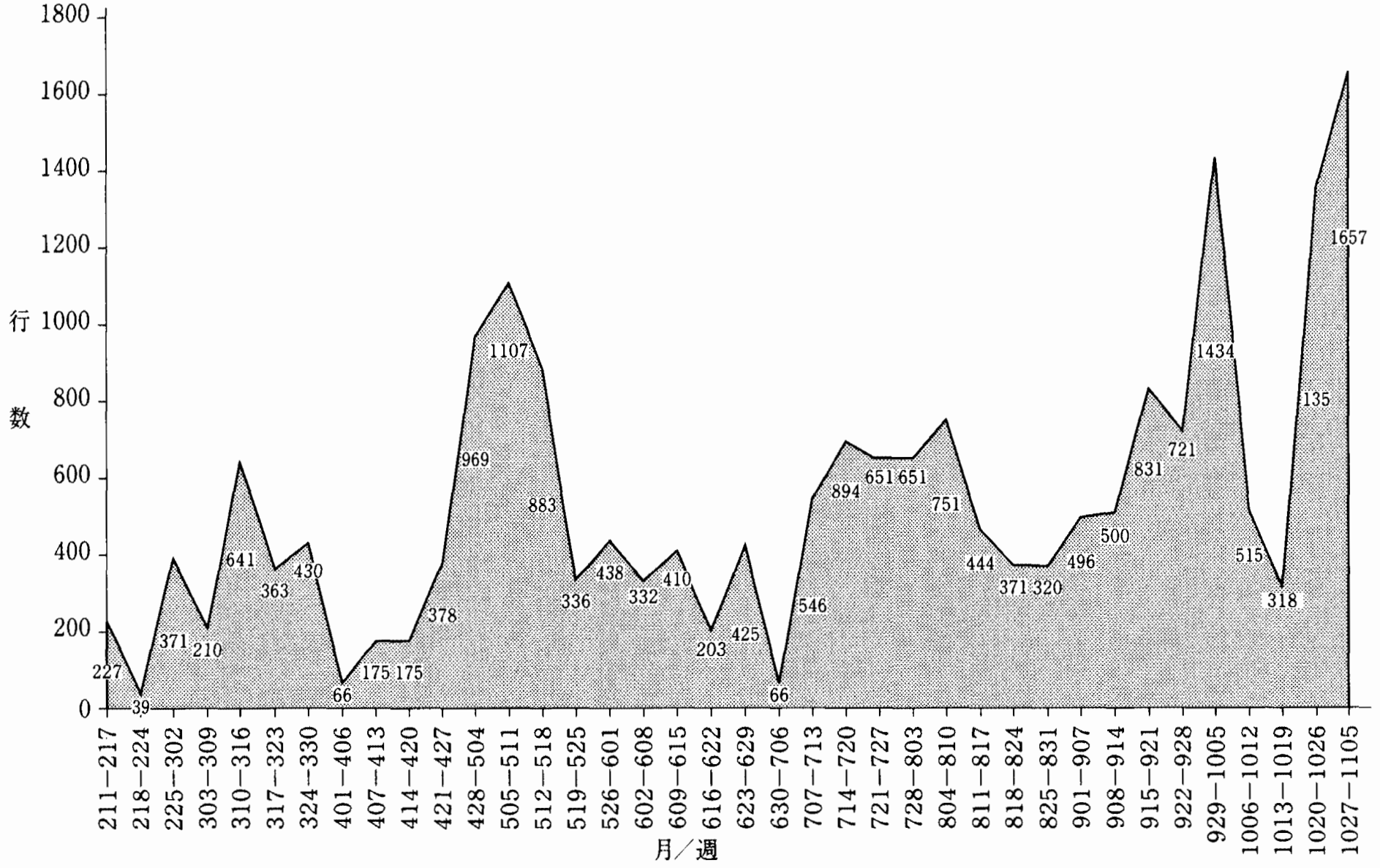
	ALEXAN DER	BARRET	BEREUT ER	CHALEN GER	CHRIST ENSEN	CLINTON	COOMBS	DAVIS	DECAMP	DOLE	FORBS	GORE	GRAM
各種団体	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	0.00	0.00
プロチョイス	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.04	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01
プロライフ	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.01	-0.07	-0.02	-0.01	-0.02	-0.04	-0.02	-0.02	0.02
タバコ関連	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	0.10	-0.02	-0.02	-0.01	0.00	-0.02	0.05	-0.01
選挙運動関連	0.03	-0.01	-0.01	-0.01	0.42	-0.04	-0.01	0.29	-0.01	0.03	0.00	-0.01	0.00
候補者たち	0.02	-0.02	0.04	0.00	-0.01	-0.04	0.01	-0.02	-0.02	-0.03	-0.01	-0.01	-0.01
クリントン	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.01	0.22	-0.02	-0.02	-0.02	0.17	-0.02	0.03	-0.01
ドール	-0.01	-0.02	-0.03	-0.02	-0.02	0.02	-0.02	-0.02	-0.02	0.27	-0.02	0.01	-0.01
ヘーゲル	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.04	-0.01	-0.01	-0.01	-0.04	-0.01	-0.01	0.00
ネルソン	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.05	-0.01	0.01	0.07	-0.04	-0.01	-0.01	-0.01
議会関係者	-0.03	-0.02	-0.01	-0.04	-0.02	0.03	-0.03	-0.03	-0.03	-0.08	-0.04	-0.02	-0.01
各種職能団体	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	0.03	-0.02	-0.01	-0.01
医師	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.03	-0.01	-0.01	0.00
教育関係者	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	-0.04	-0.01	-0.01	-0.01	-0.05	-0.01	-0.01	-0.01
裁判所・法曹	-0.02	-0.02	-0.03	-0.03	-0.02	-0.01	0.03	-0.02	0.07	0.10	-0.03	-0.02	-0.01
財界	-0.01	-0.02	0.13	-0.01	-0.01	-0.08	0.17	-0.01	-0.02	-0.05	-0.01	-0.02	-0.01
労働	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.03	-0.01	-0.01	-0.01	-0.03	-0.01	-0.01	0.00
連邦政府関係	0.14	-0.02	-0.01	-0.03	-0.02	0.09	0.02	-0.02	-0.03	-0.04	-0.03	-0.01	-0.01
国際・外国	-0.01	-0.01	0.02	-0.01	0.00	0.05	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	0.00
保守派	-0.01	-0.01	0.01	-0.01	0.01	-0.03	-0.01	-0.01	-0.01	-0.03	-0.01	-0.01	0.00
進歩派	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	0.00	0.00
利益集団・ロビスト	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.04	-0.01	-0.01	0.00
地方政府集団	0.01	-0.01	0.00	0.03	-0.01	-0.08	-0.03	0.02	0.04	-0.07	-0.02	-0.03	-0.01
メディア	0.01	0.00	-0.02	-0.04	0.00	0.08	-0.01	0.01	0.03	0.10	0.04	-0.02	-0.02
少数派	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.03	-0.02	0.02	-0.01
各種運動団体	-0.02	0.06	-0.01	-0.02	0.01	-0.08	-0.02	-0.02	-0.02	-0.09	-0.02	-0.02	-0.01
その他の集団	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02	-0.01	0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01
人々	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.03	-0.01	-0.01	-0.01
政治家	0.01	-0.02	-0.01	-0.04	0.02	-0.04	-0.03	0.00	0.04	0.00	-0.01	-0.02	0.00
政党	0.02	-0.01	-0.02	-0.02	0.00	0.09	-0.02	0.00	-0.01	0.05	0.05	0.01	-0.01

	HIRALLY	HAGEL	INCUMB ENT	KEMP	LAM	NELSON	BUCHAN AN	PEROT	POWELL	ROBAK	ROBIN DOLE	STENBE RG	WEBSTE R
各種団体	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.02	0.00	-0.02	-0.01	-0.01	0.00	0.01	0.00
プロチョイス	-0.01	-0.03	-0.01	-0.02	-0.01	-0.03	0.00	-0.02	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	0.00
プロライフ	-0.02	0.01	-0.02	-0.02	-0.02	0.05	0.01	-0.03	0.00	-0.01	-0.01	0.00	-0.01
タバコ関連	0.12	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	0.01	-0.03	-0.04	-0.02	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01
選挙運動関連	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	0.05	-0.02	-0.01	0.00	0.00	-0.01	0.00
候補者たち	-0.02	-0.05	-0.02	-0.02	-0.02	-0.04	0.00	0.04	-0.01	0.07	0.02	-0.02	0.01
クリントン	0.00	-0.05	-0.02	0.02	0.05	-0.05	-0.03	0.00	0.00	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01
ドール	-0.02	-0.05	-0.02	0.04	0.02	-0.05	0.01	0.01	0.07	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01
ヘーゲル	-0.01	0.26	-0.01	-0.01	-0.01	0.08	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	0.00	0.03	0.00
ネルソン	-0.01	0.14	-0.01	-0.02	-0.01	0.16	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	0.00
議会関係者	0.08	-0.03	-0.04	-0.04	-0.02	-0.05	-0.04	-0.03	-0.02	-0.01	-0.01	-0.03	-0.01
各種職能団体	-0.02	0.01	-0.02	0.07	-0.02	0.12	-0.02	-0.03	0.00	-0.01	-0.01	0.04	0.00
医師	0.00	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	0.00	0.00	0.01	0.00
教育関係者	-0.01	-0.03	0.00	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	0.00
裁判所・法曹	0.03	-0.04	-0.02	-0.04	-0.02	-0.03	-0.04	-0.02	-0.02	-0.01	-0.01	-0.02	0.00
財界	-0.03	0.03	-0.01	0.03	-0.02	-0.01	-0.02	-0.03	-0.01	0.00	-0.01	-0.01	-0.01
労働	-0.01	0.30	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	0.00	-0.01	-0.01	0.00	0.00	-0.01	0.00
連邦政府関係	0.06	-0.07	-0.03	-0.02	-0.02	-0.07	-0.04	-0.01	-0.02	-0.02	-0.01	-0.04	-0.01
国際・外国	-0.01	-0.02	-0.01	0.19	-0.01	-0.03	0.10	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	0.00
保守派	0.00	-0.03	-0.01	-0.02	-0.01	-0.03	0.02	-0.02	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	0.00
進歩派	0.01	-0.02	-0.01	0.00	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	0.00	0.00	0.00	-0.01	0.00
利益集団・ロビスト	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	0.00	-0.01	0.00
地方政府集団	-0.03	-0.04	0.00	-0.04	-0.03	-0.02	-0.02	-0.05	-0.02	0.00	-0.01	-0.02	0.02
メディア	-0.03	-0.05	-0.01	-0.04	-0.03	-0.05	0.00	0.06	0.04	-0.02	-0.01	-0.03	-0.01
少数派	0.00	-0.03	-0.02	0.04	-0.02	-0.02	-0.02	-0.03	0.00	0.00	-0.01	-0.02	0.00
各種運動団体	-0.02	-0.03	-0.02	-0.01	-0.02	-0.04	-0.03	-0.04	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01
その他の集団	-0.02	-0.02	-0.02	0.02	-0.01	-0.03	-0.01	-0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人々	-0.02	-0.01	-0.01	-0.02	0.00	0.01	-0.01	0.03	0.00	0.00	0.00	-0.02	0.00
政治家	-0.02	0.02	-0.03	0.01	-0.03	0.02	0.03	-0.06	-0.02	0.00	0.00	-0.01	-0.01
政党	-0.02	-0.02	-0.02	0.01	0.04	0.00	0.04	0.02	-0.01	-0.01	0.03	-0.02	-0.01

図表Ⅲ-1 大統領選挙記事の時系列変化



図表Ⅲ-2 議会選挙記事の時系列変化



— 11 —

19-3-4-410 (香法 2000)

地方選挙（図表Ⅲ—4）は、5月の予選直前、10月中旬から投票日までの断片的な山である。

以上のことは、次のように言えるだろう。

第一に、大統領選挙は予選と党大会の間の期間はほとんど運動は休みであるが、その期間にネブラスカ州では5月の予選を目指して議会報道の大きな山がある。また全国大会の直前に議会選挙報道の山がある。全国大会の報道中は議会選挙の報道がない。労働日以降の大統領選挙報道はテレビ討論まで低調な一方、議会選挙報道は漸次盛り上がりを見せる。

このように、大統領報道と議会選挙が交互に報道量のウェイトを交代させているのである。全国的関心が支配する大統領選挙と、すっかり地方的関心事項となった上院・下院選挙との違いを際立たせている。

第二に、州選挙・地方選挙は予選の時期と本選挙を前にした10月期の記事が主体となっている。選挙前にのみ情報提供を図るといふ地方紙の最近のスタイルを示すものか？ ネブラスカ州の本格的州地方選挙は中間選挙期にあるので、今回の選挙ではその実態を示したものではないであろう。

第三に、全選挙記事で見ると、3月の予選期間のあと4月に報道の低下を示すものの9ヶ月間のトレンドとしては11月の本選挙に向かう上り調子の報道量の増大を示している。

2. 記事行数の決定因

選挙記事の行数＝量はどのような要因によって決まるのだろうか？

次のようなことが仮説として考えられる。

仮説(1) 公職の重要性によって異なる。

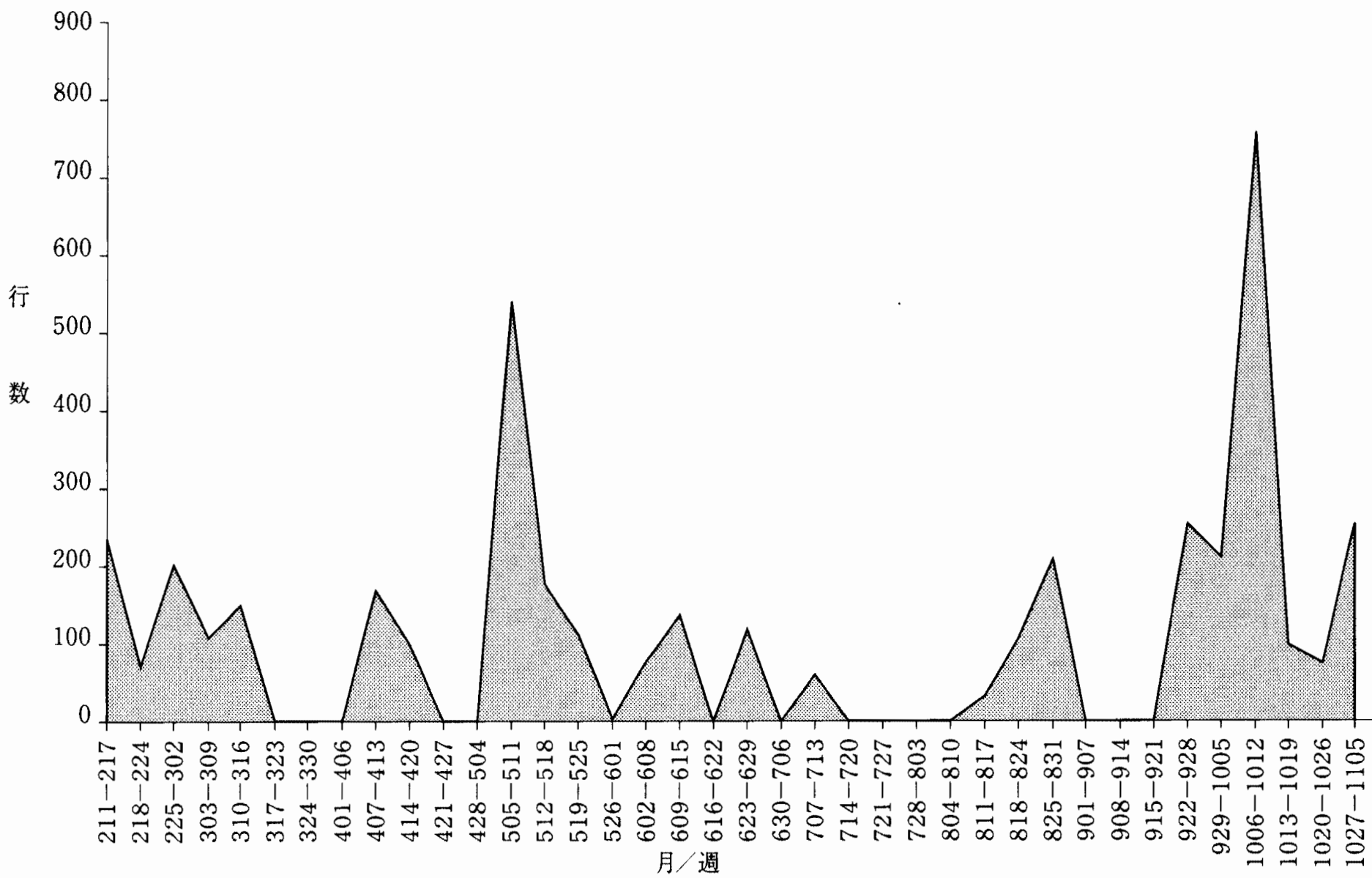
仮説(2) 焦点となっている候補者に言及される場合記事量が多くなる。

仮説(3) 焦点となっている争点に言及される場合記事量が多くなる。

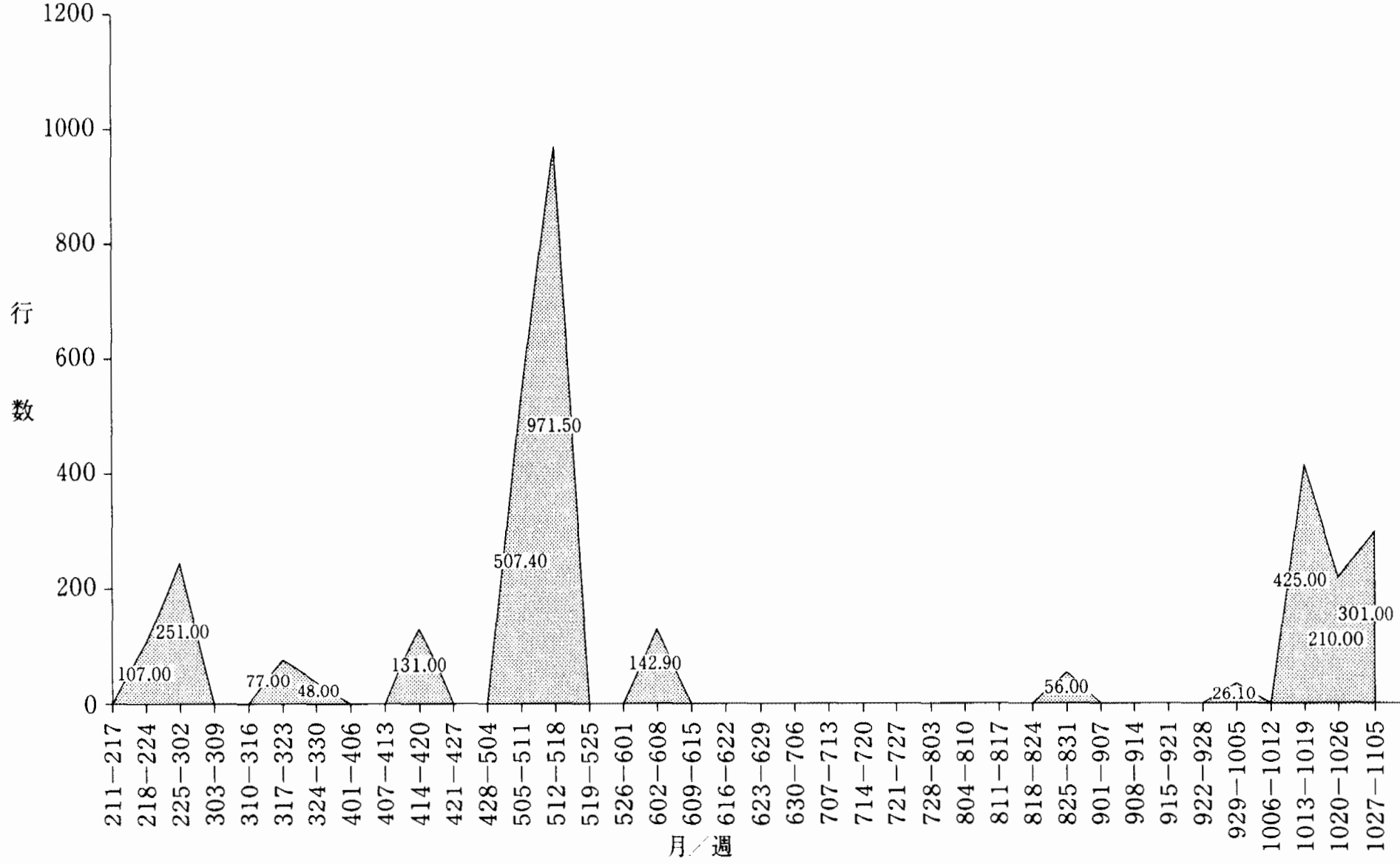
(1) 公 職

図表Ⅲ—5によると、公職についてはすでに言及してきたが、当然にも大統領が全記事中最大である。順に、大統領が38,354行の41%、議会が

図表Ⅲ－3 州選挙記事の時系列変化



図表III-4 地方選挙記事の時系列変化



20,629 行の 22%，州選挙が 4,264 行の 5%，地方選挙が 3,268 行の 4%，裁判所が 1,207 行の 1%，選挙一般が 954 行の 1%，その他が 24,331 行の 26%⁽¹⁰⁾，であった。

記事量は、選挙される公職の重要性が記事量を決めていると言える。

(2) 候補者と争点

まず相対度数で候補者別の報道量を見てみよう。

図表Ⅲ－6 は、言及度数が多かった候補者を ABC 順にソートしたデータである。図表によると、大統領候補者が上位 2 位を占めて 3 万 4 千行を超える言及量である。次にネブラスカ州の上院議員候補者のヘーゲルとネルソンが大統領の約半分の言及量である。300 行前後に、ペロー、ケンプ、ブキャナンが来る。ネ州の下院議員候補者は、ビロイターが 1,000 行余りを示したのみで同じ 1 区のクームは 600 行弱、第 2 区のクリステンセン以下言及量は極めて小さい。

州・地方選挙で氏名を挙げずにコードされた INCUMBENT (=現職) と CHA (=挑戦者) は互いに 1,000 行を超えてまあ多い方であろう。

人気のある候補者、よきにつけあし

図表Ⅲ－5 公職と記事行数

大統領	38,354	41.24
議会	20,629	22.18
州選挙	4,264	4.58
地方選挙	3,268	3.51
裁判	1,207	1.30
選挙	954	1.03
その他	24,332	26.16
合計	93,007	100.00

図表Ⅲ－6 候補者と記事行数

ALEXANDER	622	0.90
BARRET	183	0.26
BEREUTER	1,133	1.64
CHALLENGER	1,037	1.50
CHRISTENSEN	587	0.85
CLINTON	15,282	22.09
COOMBS	597	0.86
DAVIS	195	0.28
DECAMP	557	0.81
DOLE	17,936	25.93
FORBS	1,067	1.54
GORE	801	1.16
GRAM	248	0.36
HIRALLY	1,249	1.81
HAGEL	7,273	10.52
INCUMBENT	1,324	1.91
KEMP	3,086	4.46
LAM	918	1.33
NELSON	6,091	8.81
BUCHANAN	2,859	4.13
PEROT	3,179	4.60
POWELL	550	0.80
ROBAK	401	0.58
ROBIN DOLE	202	0.29
STENBERG	1,685	2.44
WEBSTER	107	0.15
計	69,169	100.00

きにつけ注目されている候補者，については記事量が増えるだろう。もちろん候補者の公職が関係しているわけだが。

これらの候補者中0.01%以下の有意性をもつ5名についてみてみた。図表III-7の標準化回帰係数ベータ(記事単位ファイル)によると，ヘーゲルが登場する場合0.19と最大で，以下，ブキャナン＝クリントン，ドールと続き，ネルソンが最低である。候補者だけで説明分散は80%に上る。

争点を考慮に入れた場合，説明分散は低下するが実は記事行数を最もよく説明するのは各種争点であることが分かる。政策，選挙一般，税金問題など β 値で0.50を超えるものがある。例えば税金の争点が登場するとそれだけで0.5行他の争点より行数が増えるというわけである。

図表III-7 記事行数と候補者

	非標準化係数B	標準化係数 β	B	β	B	β
HAGEL	0.33	0.18			0.26	0.14
DOLE	0.23	0.16			0.11	0.08
CLINTON	0.21	0.12			0.27	0.16
NELSON	0.15	0.07			0.16	0.07
争点						
キャンペーン関係			0.50	0.31	0.42	0.39
スキャンダル			0.40	0.21	0.39	0.39
選挙一般			0.52	0.28	0.36	0.53
政策			0.48	0.24	0.32	0.50
住民投票			0.32	0.18	0.29	0.37
選挙資金			0.37	0.16	0.27	0.37
宗教・中絶			0.43	0.18	0.27	0.47
税金			0.60	0.24	0.26	0.50
パーソナリティ			0.49	0.18	0.25	0.38
社会問題			0.34	0.13	0.24	0.28
(定数)	78.01		63.56		57.00	
R**	0.80		0.34		0.39	

[IV] バイアス

1. 候補者別の報道量におけるバイアス

図表IV-1は，公職別にこの9ヶ月間の言及行数が示してある。ジャ紙は下院1区域内の新聞であるので他区の報道には歪みがあると思われたた

め、1区現職ビロイター（共和党）と挑戦者（民主党）のクームのデータを取り上げた。3区は殆ど無投票当選状態であったので言及しない。

(1) 大統領

大統領も予選のないクリントンと予選のあったドールとの違いが反映しているだろう。図表IV-1では、ドールが約2,700行多いが、図表IV-2を見ると、ドールが多いのは予選前の約4,400行で予選後にはクリントンが約900行上回るという結果となっている。好意性の観点では、全体としてクリントンが多いが、表によると予選前にドールのほうが好意的言及が多く（約14ポイントの差）予選後にクリントンが圧倒的に好意的言及が多くなっている（約15ポイントの差）。

予選期間中、他の候補者に対してリードを保っていたドールは、ポル記事などでリードしている言及の仕方が多くなりそれが彼の好意性を増加させた。クリントンは、共和党の複数の候補者に批判される役割を果たしたため非好意的言及が増えた。

9月以降クリントン不利のこの傾向に逆転が見られたのは、党大会以降の民主党のキャンペーンや、最後まで逆転しなかった支持率の差（これはポル報道に現れる）に圧倒されたためだといえるだろう。

ペローの言及行数は、全体で3,100行と必ずしも少なくない。しかし9月以前が好意性で-16ポイント、以後が-12ポイントと非好意的扱いが多い。

(2) 上院

図表IV-1 候補者言及行数と好意性

	大統領			上院		下院1区		候補者一般	
	ドール	クリントン	ペロー	ヘーゲル	ネルソン	ビロイター	クームス	現職	新人
好意%	9.87	16.14	6.55	8.94	10.73	9.62	5.80	8.31	0.77
中立	68.71	58.63	73.35	75.69	69.64	83.50	66.21	79.94	94.22
非好意	21.42	25.24	20.10	15.37	19.62	6.88	27.99	11.75	5.01
総行数	17,969	15,284	3,183	7,232	6,103	1,133	586	1,300	1,037
好意性指標（好意 マイナス非好意）	-11.56	-9.10	-13.55	-6.43	-8.89	2.74	-22.18	-3.44	-4.24

図表IV-1における上院報道のバイアスでは、ヘーゲルとネルソンとの比較を行う。行数では、ヘーゲルのほうがネルソンより約1,100行多いので量的にバイアスがあるといえるだろう。表の好意性では、ネルソンが約2ポイント上回っているが差が小さい。上院選挙の報道ではバイアスがなかったのだろうか？

ネ州の上院選挙は5月14日に予選があった。ネルソンは無投票当選であり、ヘーゲルはステンバーグという相手がいて予選があり、当然にも予選前後の差があるだろう。

その違いを見たものが、図表IV-2である。ところが、表によると、予選前後期間の両者の違いはいずれもヘーゲルが約600行ずつ上回るという傾向を見せている。好意性指標では、予選前には両者とも-16ポイントと

図表IV-2 予選前後によるバイアスの変化

		クリントン	ドール	ペロー
9月1日より前	好意%	9.42	10.35	6.42
	中立	59.02	71.35	70.90
	非好意	31.57	18.29	22.68
	総行数	5,056.50	8,615.00	1,278.40
		好意性指標(好意マ イナス非好意)	-7.94	-16.25
9月1日以後	好意%	19.46	9.42	6.63
	中立	58.43	66.27	75.00
	非好意	22.11	24.31	18.37
	総行数	10,227.00	9,354.20	1,905.00
		好意性指標	-14.89	-11.74
		ヘーゲル	ネルソン	
5月14日以前	好意%	4.38	6.80	
	中立	74.91	69.49	
	非好意	20.70	23.71	
	総行数	1,643.20	1,088.20	
		好意性指標	-16.91	
5月14日より後	好意%	10.28	11.59	
	中立	75.91	69.68	
	非好意	13.81	18.74	
	総行数	5,589.10	5,015.20	
		好意性指標	-7.15	

同じだったが、予選後になるとヘーゲルのほうが好意的報道が多かった。ネルソンが予選後において約 100 行上回っている。

まとめると、量的な観点ではヘーゲルのほうが多く、ヘーゲル、ネルソンの二人レースとなった本選挙でもヘーゲルへの好意的扱いが目立ったといえる。(ジャ紙の推薦傾向は、予選期間ではヘーゲル、本選挙ではネルソンであったが、報道記事では推薦態度と異なっていたというわけだ。これはポルの結果報告でヘーゲルの追い上げの好意的報道が多かった等という理由があろう)。

(3) 下院

行数の観点で、図表の総行数の行を見ると、ビロイターが 1,133 行、クームスが 586 行その差が 597 行であった。現職議員がおよそ倍の差で挑戦者を上回っていた。ビロイターは下院 8 期現職で外交委員長という大物である。州党組織では主たる役員を務め、何かにつけメディアに登場する機会が多かった。クームスは著名なラジオジョッキーであったが、その仕事⁽¹²⁾が連邦選挙法に抵触するという問題で、共和党から訴えられるという形で登場することが多かった。事件の内容自体がバイアスを持っていたのである。

このことは、候補者好意性行数においてクームスの非好意性行数が約 28 %に上り、かつ好意行から非好意行をマイナスした好意性指標でクームスがビロイターに 25 ポイントも低い、という点に現れている。

下院報道では、⁽¹³⁾明らかに現職に対するバイアスがあったと思われる。

2. バイアスの原因

ここでは候補者間関係と争点にバイアスの原因を求める。

候補者間関係は、好意性の評価が、記者の主観によるのではなく、引用されている候補者の発言が対立候補者批判として現れている場合ネガティブなコードがつけられるからである。

争点は、データシートにおいて候補者と別項目で記録されているため、

図表IV-3 相関関数（候補者好意性との相関）段落単位ファイルから

	BERE UTER 好意	BERE UTER 非好意	COM BS 好意	COM BS 非好意	DOLE 好意	DOLE 非好意	CLIN TON 好意	CLIN TON 非好意	PERO T 好意	PERO T 非好意	HAGE L 好意	HAGE L 非好意	NELS ON 好意	NELS ON 非好意	現職 好意	現職 非好意	新人 好意
BEREUTER非好意																	
COMBS好意		0.5															
COMBS非好意	0.2																
DOLE好意								0.1									
DOLE非好意							0.3										
CLINTON好意																	
CLINTON非好意																	
PEROT好意																	
PEROT非好意						0.1	0.1										
HAGEL好意																	
HAGEL非好意																	
NELSON好意													0.2				
NELSON非好意												0.2	0.1				
現職好意																	
現職非好意																	0.2
新人好意																	
新人非好意																	
予算関係														0.1			
大きな政府																	
キャンペーン関係					0.1	0.1	0.1								0.1		
議会関係																	
党大会関連																	
裁判関連																	
討論																	
経済問題																	
選挙一般									0.1			0.1					
国政選挙																	
州・地方選挙																	0.1
選挙資金																	
外交	0.1																
イデオロギー																	
利益集団																	
議題問題																	
州・地方問題																	
メディア				0.2													
小数派																	
その他の争点																	
党派性																	0.1
政策																	
パーソナリティ																	0.1
大統領																	
政党政策・組織																	
住民投票																	
宗教・中絶																	
スキャンダル																	0.1
社会問題																	0.1
税金																	
福祉																	

一七五

言及争点で好意的評価が与えられている場合好意的得点が付与され、そうでない場合は非好意的得点が付与されるという、直接の対応関係があるからである。

これらのことは、図表IV-3に相関行列として示した。

図表によると、ビロイター好意から新人非好意までほぼ「好意—非好意」の対応するペアにおいてある程度の相関値（ピアソンの r）が見られる。

[V] 争点報道

図表V—1は、記事で話題とされた事柄の総行数と内訳のパーセントを示したものである。その中では実質的な国内外のいわゆる政策と言えるものと、競馬やキャンペーン組織の内部問題などの非政策的な内容を含んでいる。これらをここでは一括して争点と仮に呼んで来たが、後述のアジェンダの分析のため実質的政策には○印、非政策には×印をつけておいた。

1. 争点報道の状況

表では整理された争点 31 種類の合計，対象公職種別のクロス表(%と順位)が示されている。

まず全体の争点⁽¹⁴⁾状況を見るために「合計」の列を見ると、順に今回の選挙の争点は「キャンペーン関係」⁽¹⁵⁾—「選挙一般」⁽¹⁶⁾—「スキャンダル」⁽¹⁷⁾—「政策」⁽¹⁸⁾—「税金」—「住民投票」—「選挙資金」⁽¹⁹⁾—「党大会関連」⁽²⁰⁾—「宗教・中絶」⁽²¹⁾—「福祉」，が10位までを占めている。

大統領選挙関連記事では、ここから「政策」，「住民投票」，「選挙資金」⁽²²⁾，「党大会関連」，「宗教・中絶」，が落ちる。代わりに，「社会問題」⁽²³⁾，「政党政策・組織」⁽²⁴⁾，「討論」⁽²⁵⁾，「大統領」⁽²⁶⁾，「パーソナリティ」⁽²⁷⁾が入る。(注で上げた記事例は，段落単位の記事例と異なる。後者の場合部分的にその種の争点が入っていればそういうものとしてコードされるのだが，前者は全体がその争点を扱っていないと落ちる。したがって統計的な比較検証は出来ない。)

議会選挙関連では，「住民投票」，「党大会関連」，「宗教・中絶」が落ちる。代わりに，「メディア」，「予算関係」，「党派性」，が入る。

州政府関連選挙では，「スキャンダル」，「党大会関連」，「宗教・中絶」が落ちる。代わりに，「州・地方選挙」，「大統領」，「州・地方問題」が入る。

図表V-1 争点報道(公職別)

	大統領	順	議会	順	州政府	順	地方政府	順	裁判所	順	選挙一般	順	その他	順	合計	順
×キャンペーン関係	18.07	1	17.63	1	3.50	9	3.84	6	4.54	7	3.72	5	3.07	13	12.40	1
×選挙一般	4.15	8	8.79	2	6.20	5	6.93	5	0.00	14	53.81	1	8.80	3	7.03	2
×スキャンダル	9.94	2	3.59	10	3.09	11	0.00	16	16.08	3	0.00	18	3.17	12	6.07	3
×政策	1.80	18	5.23	6	6.76	4	20.34	2	21.44	2	0.00	14	8.70	4	5.57	4
○税金	6.01	4	3.77	8	8.46	3	8.35	4	0.00	19	0.50	12	4.54	9	5.20	5
○住民投票	0.07	30	0.50	28	4.26	8	14.73	3	0.67	10	0.00	13	15.86	1	5.18	6
×選挙資金	3.55	12	7.31	4	14.52	2	0.16	14	2.83	8	12.97	2	3.67	10	4.83	7
×党大会関連	3.14	15	0.77	26	0.59	21	0.00	21	0.00	15	11.90	3	10.57	2	4.46	8
○宗教・中絶	3.68	11	2.88	14	0.65	20	0.11	15	0.89	9	0.00	15	7.91	5	4.31	9
○福祉	3.83	10	5.06	7	5.21	7	0.00	23	0.00	20	0.00	16	4.61	8	4.13	10
○パーソナリティ	6.80	3	3.67	9	1.89	14	1.15	8	0.52	12	2.11	7	1.42	17	4.12	11
○社会問題	5.70	5	1.15	22	1.69	15	0.00	17	6.03	5	0.80	11	4.66	7	4.02	12
×政党政策・組織	5.54	6	3.00	12	0.00	29	0.00	24	0.00	21	0.00	17	3.41	11	3.84	13
×メディア	2.92	16	8.29	3	1.53	17	0.00	19	0.60	11	2.01	8	1.70	14	3.51	14
○少数派	3.21	13	1.24	20	0.00	26	0.19	12	8.34	4	6.44	4	6.05	6	3.41	15
×州・地方選挙	0.00	31	0.26	30	22.48	1	40.31	1	33.06	1	0.00	28	0.28	27	3.13	16
×討論	4.27	7	2.92	13	0.00	27	0.19	13	0.00	25	0.00	22	1.16	20	2.70	17
○予算関係	1.32	20	5.86	5	0.36	23	0.00	26	0.00	23	0.00	20	1.37	18	2.16	18
○外交	3.19	14	1.91	18	0.00	30	0.00	27	0.00	27	0.00	24	0.82	23	1.94	19
×大統領	3.98	9	0.45	29	3.41	10	0.00	20	0.22	13	0.00	29	0.17	28	1.94	20
○経済問題	2.66	17	1.17	21	1.56	16	0.54	9	0.00	26	0.00	23	0.83	22	1.66	21
×利益集団	1.29	21	1.81	19	3.09	12	0.00	25	0.00	22	0.00	19	1.60	16	1.49	22
○イデオロギー	1.68	19	0.97	24	1.06	18	0.32	10	0.00	17	1.91	9	1.00	21	1.25	23
×その他の争点	0.88	22	0.84	25	2.09	13	2.51	7	0.00	16	2.51	6	1.61	15	1.19	24
×州・地方問題	0.27	27	2.05	15	5.93	6	0.32	11	0.00	24	0.00	21	1.22	19	1.15	25
×国政選挙	0.66	23	2.04	16	0.23	24	0.00	30	0.00	30	0.00	27	0.29	26	0.79	26
○党派性	0.12	28	3.07	11	0.16	25	0.00	22	0.00	18	1.31	10	0.17	30	0.76	27
×議会関係	0.53	24	2.01	17	0.50	22	0.00	31	0.00	31	0.00	30	0.17	29	0.71	28
×議題問題	0.33	25	1.06	23	0.00	31	0.00	29	0.00	29	0.00	26	0.53	25	0.50	29
○大きな政府	0.30	26	0.69	27	0.79	19	0.00	28	0.00	28	0.00	25	0.63	24	0.48	30
×裁判関連	0.11	29	0.00	31	0.00	28	0.00	18	4.77	6	0.00	31	0.00	31	0.11	31
	40,356		20,592		4,433		3,712		1,343		994		26,444		97,876	

地方選挙関連では、「スキャンダル」、「選挙資金」、「党大会関連」、「宗教・中絶」、「福祉」が落ちる。代わりに、「パーソナリティ」、「州・地方選挙」、「経済問題」、「イデオロギー」、「その他の争点」が入る。

一七三

選挙に関係した裁判関連記事では、「選挙一般」、「税金」、「党大会関連」、「福祉」が落ちる。代わりに、「社会問題」、「少数派」、「州・地方選挙」、「裁判関連」が入る。

選挙一般記事では、「スキャンダル」、「政策」、「税金」、「住民投票」、「宗

教・中絶」，「福祉」が落ちる。代わりに，「パーソナリティ」，「メディア」，「少数派」，「イデオロギー」，「その他の争点」が入る。

その他記事では，「キャンペーン」，「スキャンダル」が落ちる。代わりに，「社会問題」，「少数派」が入る。

大統領と議会選挙を分ける争点は何か？ まず共通するところから見ていこう。「キャンペーン関係」，「選挙一般」，「スキャンダル」，「税金」，「福祉」，「パーソナリティ」はいずれも10位以内に入っている争点である。その他，近接しているところで10位に近いところを挙げると，「選挙資金」，「宗教・中絶」，「政党政策・組織」，「討論」⁽²⁶⁾はいずれの選挙でもほぼ重視されていたと見てよいだろう。

大統領で重視され議会選挙で軽視された争点は，「社会問題」，「大統領」である。テロ，アルコール，犯罪，等の社会問題は地方のネブラスカ州では問題にされようがなかった。また，大統領の項目は大統領の選挙期間の行動を扱うものであって，これも議会選挙とは関係が薄かった。

逆に，議会選挙で重視され大統領で軽視された争点は，「政策」，「メディア」，「予算関係」，「党派性」であった。政策は，その他の国政問題が報道され政策が相対的に少なくなる大統領選挙と比べて，議会選挙では多面的な角度から議論された。メディア問題は，主として候補者の政治アド⁽²⁷⁾に関係したものである。大統領のアド⁽²⁸⁾はネ州では少なかった。議会選挙のアドは，新しいアドが始まるたびに言及され対立陣営からコメントが加えられるというものであった。「予算関係」は特に均衡予算をめぐるヘーゲルとネルソン間の議論で集中的に問題とされた（前拙稿参照）。「党派性」もまた，州共和党が党派性を強調しネルソン陣営が無党派性を強調するという対立した構図の中で争点化した。

州・地方選挙では，コーディングの関係上その選挙記事であるという「州・地方選挙」項目が圧倒的に多く，あまり内容的には言及しがたい。そういうなかでも，大統領，議会選挙で見られない顕著な争点として「住民投票」が挙げられるだろう。州選挙で4%，地方選挙で15%にも上り，

この争点が国政選挙と地方選挙を分ける最大のものであるといえるだろう。何の話題もない、あるいは、住民投票と選挙を日程的にも分ける日本の地方選挙と比べて米国の地方選挙は住民投票で選挙人の関心を高めることができるのである。

2. 候補者と争点との関係

V-2表には、主要候補者と争点との間の関係を見るために本選挙前と9月の本選挙後の2変数間相関係数が掲げている。

(1) 大統領候補者

ドールはクリントンよりキャンペーン記事との関係が強い。大統領と挑戦者との間のキャンペーンのあり方が異なっていることを示すものである。

キャンペーン関係記事は予選の有無によって大きな影響を受ける。そこで、9月の本選挙の前と後とに分割し値を比較したデータが図表V-2である。ドールは変わらない一方、クリントンは0.03の無相関状態から0.12に跳ね上がった。他にも労働日を前後して変化を見せる争点がある。

「議会関係」が二人ともプラスからマイナスに変化した。本選挙前クリントンが議会活動を通して選挙人の政策関心におもねようとしたこと（福祉改革法は選挙人の意思に反したが相関としてはプラスに出る）が、選挙突入後キャンペーンをせざるを得なくなったこと、ドールはすでに議員を辞任していたことをあらわしている。

「経済問題」はクリントンにおいて事前事後で係数が0.13から0.20に上がっている。クリントン陣営が、経済問題を選挙終盤の議題にしたことがよく分かる。

議題問題はいずれの陣営も本選挙後の争点であった。クリントンはドールのビジョン不足を攻め、ドールはクリントンの92年の増税をしないという公約違反を責めた。

両者の人格資質や経歴が含まれる「パーソナリティ」は、第二次大戦参

図表 V-2 本選挙前争点と候補者の相関係数

	DOLE	CLINTON	KEMP	GORE	HAGEL	NELSON	BEREUTER	COOMBS	CHRISTENSEN	DAVIS	INCUMBENT	CHALENGER
予算関係	0.04	0.02	0.01	-0.02	0.14	0.19	-0.02	-0.03	-0.01	-0.02	-0.03	-0.03
大きな政府	0.11	0.04	0.06	-0.02	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02
キャンペーン関係	0.30	0.04	0.00	0.04	0.23	0.05	-0.01	-0.03	0.02	0.02	-0.01	-0.02
議会関係	0.13	0.03	-0.03	-0.02	0.00	0.00	0.15	-0.02	-0.02	-0.02	0.05	0.03
党大会関連	-0.01	0.12	0.00	0.28	-0.07	-0.05	0.00	-0.03	0.01	-0.02	-0.04	-0.04
裁判関連	0.06	0.06	-0.01	0.00	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	-0.01
討論	-0.06	-0.06	-0.02	-0.01	0.11	0.09	0.07	0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02
経済問題	0.03	0.13	0.06	0.05	0.01	0.05	-0.03	-0.02	-0.02	-0.02	0.02	0.06
選挙一般	-0.05	-0.08	-0.04	-0.03	-0.01	0.00	-0.02	-0.02	0.00	0.03	-0.01	0.00
国政選挙	-0.01	-0.02	-0.03	0.00	0.00	0.10	-0.02	0.02	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01
州・地方選挙	-0.13	-0.11	-0.03	-0.02	-0.05	-0.03	-0.03	-0.02	-0.02	-0.02	0.26	0.29
選挙資金	-0.08	-0.09	0.01	-0.03	0.11	0.07	0.00	0.08	0.31	0.29	0.05	0.04
外交	0.07	0.07	-0.02	-0.02	0.05	-0.02	0.16	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02	-0.03
イデオロギー	0.03	-0.04	0.00	0.00	-0.02	-0.04	-0.02	-0.02	0.00	-0.02	0.00	-0.01
利益集団	-0.01	0.00	-0.02	0.02	-0.01	0.01	0.00	-0.02	0.00	0.04	-0.01	0.00
議題問題	-0.02	0.07	0.01	0.01	0.23	0.10	-0.01	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02
州・地方問題	-0.07	0.00	-0.02	-0.02	0.09	0.11	-0.01	-0.01	0.04	0.00	-0.02	-0.02
メディア	-0.04	0.01	-0.02	0.00	0.20	0.08	0.02	0.30	0.02	0.02	-0.03	-0.03
少数派	0.01	-0.04	0.05	0.00	-0.04	-0.05	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02
その他の争点	-0.07	-0.02	-0.03	-0.02	-0.03	0.00	0.00	-0.01	-0.02	-0.02	0.06	0.05
党派性	-0.04	-0.02	-0.03	-0.01	0.13	0.36	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02
政策	-0.10	-0.05	-0.04	-0.02	0.01	0.03	0.02	-0.02	0.00	-0.02	0.13	0.14
パーソナリティ	0.20	0.03	0.20	-0.01	0.12	-0.02	-0.03	-0.03	-0.02	-0.02	0.06	0.05
大統領	0.18	-0.05	0.31	0.01	-0.05	-0.07	0.14	-0.01	0.00	-0.02	-0.03	-0.03
政党政策・組織	0.07	0.14	0.03	0.08	-0.05	-0.08	-0.04	-0.03	-0.02	-0.03	-0.04	-0.04
住民投票	-0.08	-0.07	-0.02	-0.01	-0.03	-0.03	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	0.00
宗教・中絶	0.09	-0.09	-0.03	-0.03	-0.05	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	-0.02	-0.03	-0.03
スキャンダル	-0.10	0.08	-0.04	0.00	-0.08	-0.08	-0.02	-0.03	-0.02	-0.02	-0.03	-0.03
社会問題	0.05	0.17	-0.03	0.02	-0.06	-0.05	-0.04	-0.03	-0.02	-0.02	0.02	0.00
税金	0.25	0.10	0.01	0.04	0.05	0.08	-0.01	-0.03	-0.02	-0.03	0.10	0.10
福祉	-0.04	0.23	-0.03	0.04	0.02	0.02	-0.02	-0.03	0.00	-0.02	0.00	-0.01
「本選挙相関係数」												
予算関係	-0.04	0.01	-0.05	-0.03	0.16	0.42	0.14	0.15	-0.03	-0.02	-0.01	0.00
大きな政府	0.03	0.02	0.01	0.05	0.27	0.03	-0.02	-0.02	-0.02	-0.01	0.07	0.05
キャンペーン関係	0.31	0.12	-0.05	0.04	0.17	0.10	0.04	0.07	0.17	0.09	0.10	-0.03
議会関係	-0.04	-0.03	-0.03	-0.02	0.01	-0.01	0.12	0.11	0.02	-0.01	-0.02	-0.01
党大会関連												
裁判関連	-0.03	-0.03	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	-0.01
討論	0.19	0.14	0.11	0.36	-0.03	-0.03	-0.04	-0.03	-0.02	-0.02	-0.03	-0.03
経済問題	0.10	0.20	-0.01	0.02	-0.04	-0.04	-0.02	-0.01	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02
選挙一般	-0.01	-0.01	-0.05	-0.03	0.00	0.01	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.03	-0.02
国政選挙	-0.04	0.03	-0.02	-0.02	0.01	0.02	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.02
州・地方選挙	-0.09	-0.11	-0.04	-0.02	-0.03	0.01	-0.03	-0.02	-0.02	-0.02	0.32	0.38
選挙資金	-0.04	-0.04	-0.05	-0.03	0.00	0.02	-0.04	-0.03	-0.01	-0.02	-0.01	0.01
外交	-0.02	0.09	0.29	0.00	0.02	-0.01	0.13	-0.02	0.02	-0.02	-0.03	-0.02
イデオロギー	0.05	0.08	-0.02	-0.02	0.04	-0.01	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	0.02	-0.02
利益集団	0.00	0.00	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	0.04	0.05
議題問題	0.26	0.25	-0.01	-0.02	0.13	0.02	-0.01	-0.02	0.07	-0.01	-0.02	-0.02
州・地方問題	-0.02	-0.02	-0.03	-0.02	0.06	0.17	0.20	0.12	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02
メディア	0.00	-0.02	-0.06	-0.04	0.15	0.17	-0.03	-0.03	-0.03	-0.02	-0.04	-0.03
少数派	-0.06	-0.05	0.10	0.04	-0.05	-0.04	-0.03	-0.02	-0.02	-0.02	-0.03	-0.02
その他の争点	-0.06	-0.06	-0.02	-0.01	0.02	-0.01	0.01	0.01	-0.01	-0.01	-0.01	-0.01
党派性	-0.06	-0.07	-0.03	-0.02	0.35	0.44	-0.02	-0.02	0.02	0.01	-0.02	-0.02
政策	-0.14	-0.12	-0.06	-0.02	-0.04	-0.04	-0.03	-0.02	-0.03	-0.02	0.04	0.07
パーソナリティ	0.33	0.16	-0.01	0.00	0.02	0.02	0.03	0.04	0.04	-0.02	-0.04	-0.04
大統領	0.14	0.02	0.06	0.19	-0.02	-0.03	-0.02	-0.01	-0.01	-0.01	-0.02	-0.01
政党政策・組織	0.02	0.04	0.04	0.08	-0.05	-0.05	0.08	-0.02	-0.02	-0.02	-0.03	-0.02
住民投票	-0.16	-0.19	-0.07	-0.04	-0.08	-0.07	-0.04	-0.03	-0.03	-0.03	-0.04	-0.03
宗教・中絶	-0.10	-0.11	0.00	0.00	-0.04	-0.02	-0.03	-0.02	-0.02	-0.02	-0.03	-0.03
スキャンダル	0.00	0.05	-0.06	-0.01	0.00	0.01	-0.03	-0.03	-0.03	0.08	-0.04	-0.03
社会問題	0.00	0.19	-0.05	-0.02	-0.05	-0.04	-0.03	-0.03	-0.02	-0.02	-0.03	-0.02
税金	-0.05	-0.09	0.04	0.03	0.08	0.06	-0.01	0.01	-0.03	-0.03	0.18	0.27
福祉	0.01	0.04	-0.05	-0.02	-0.03	0.02	0.05	0.08	-0.03	-0.02	-0.01	-0.01

一七〇

戦歴や高齢問題で早くから話題になっていたドールは本選挙前にも高い相関を見せ、後も上がっていった。麻薬「吸引」歴やホワイトウォーター事件に関わるクリントンの人格問題は本選挙期間中の争点であった。

ドールの「大統領」が高いのは、ケンプとの関係をめぐる話題があったからである。

人工妊娠中絶が事前にドールに相関が高く、事後にマイナスに転じているのはドールが党大会以後沈黙したためである。

クリントンは96年のキャンペーンを各種の社会問題解決のポーズを示すことにささげてきたといえるだろう。事前事後とも0.2に近い相関を示している。

福祉はクリントンは明確に党大会で「福祉改革法」を批判されて以来語る事がなくなった。0.23から0.04に相関が落ちている。

(2) 議会候補者

ヘーゲル陣営は予算、大きな政府、キャンペーン関係、議題、メディア、党派性で高い相関を示している。ネルソン陣営は予算、州・地方、党派性問題で高い相関を示している。

これらの中で注目されるのは、大きな政府問題をヘーゲルが議題としたのは本選挙以降であった点である。さらに党派性問題をネルソンとともに本選挙期間中主要な争点とした。

ネルソンは予算関係と党派性を本選挙期間中の最大の争点としたことが分かる。

下院議員選挙では、ランカスター郡を中心とする第1区の現職ビロイターは議会関係と外交の報道が安定して行われている。挑戦者クームの場合は、地方放送局のジョッキーとしての立場のままの出馬で共和党から批判されたこともあり、メディア問題と関係が深い。彼はその後ジョッキーをやめたため本選挙では相関が落ちた。第2区のクリステンセンとデイビスは報道自体が少ないので省略する。

(3) 州・地方選挙候補者

州・地方選挙でコーディングした現職と新人は事前に選挙資金の報道、本選挙で選挙があつているという「州・地方選挙」の報道であつた。

3. 競馬報道とアジェンダ

(1) 競馬報道

米国のメディアは世論調査の報告など選挙人の関心がある勝敗の報道が多く、それらは競馬報道といわれてきた。それと対立するものとして選挙人の争点関心を惹起する効果があるとされる争点報道があるといわれてきた。

記事データでは、記事全体を読んだ印象をコードして「記事種 THEME」変数を作つた。その変数のカテゴリーは9つにわたるがその中から「競馬」⁽²⁹⁾記事と「争点」記事を取り上げて従属変数として分析する。

図表V-3は記事を競馬記事、争点記事に分類した行数の時系列変化図である。図表によると、競馬記事は2～3月、5月、9月以降の期間に多く、争点記事は2～3月、4月、5月中旬以降から8月、9月の本選挙期間に多い。

両者が重なっている部分は3月予選期、9月以降の本選挙期間である。いわば、投票日が近くなるとポル記事や候補者のキャンペーン記事即ち競馬記事に紙面が圧倒されるようになると同時に、争点も候補者から訴えられるということだろう。

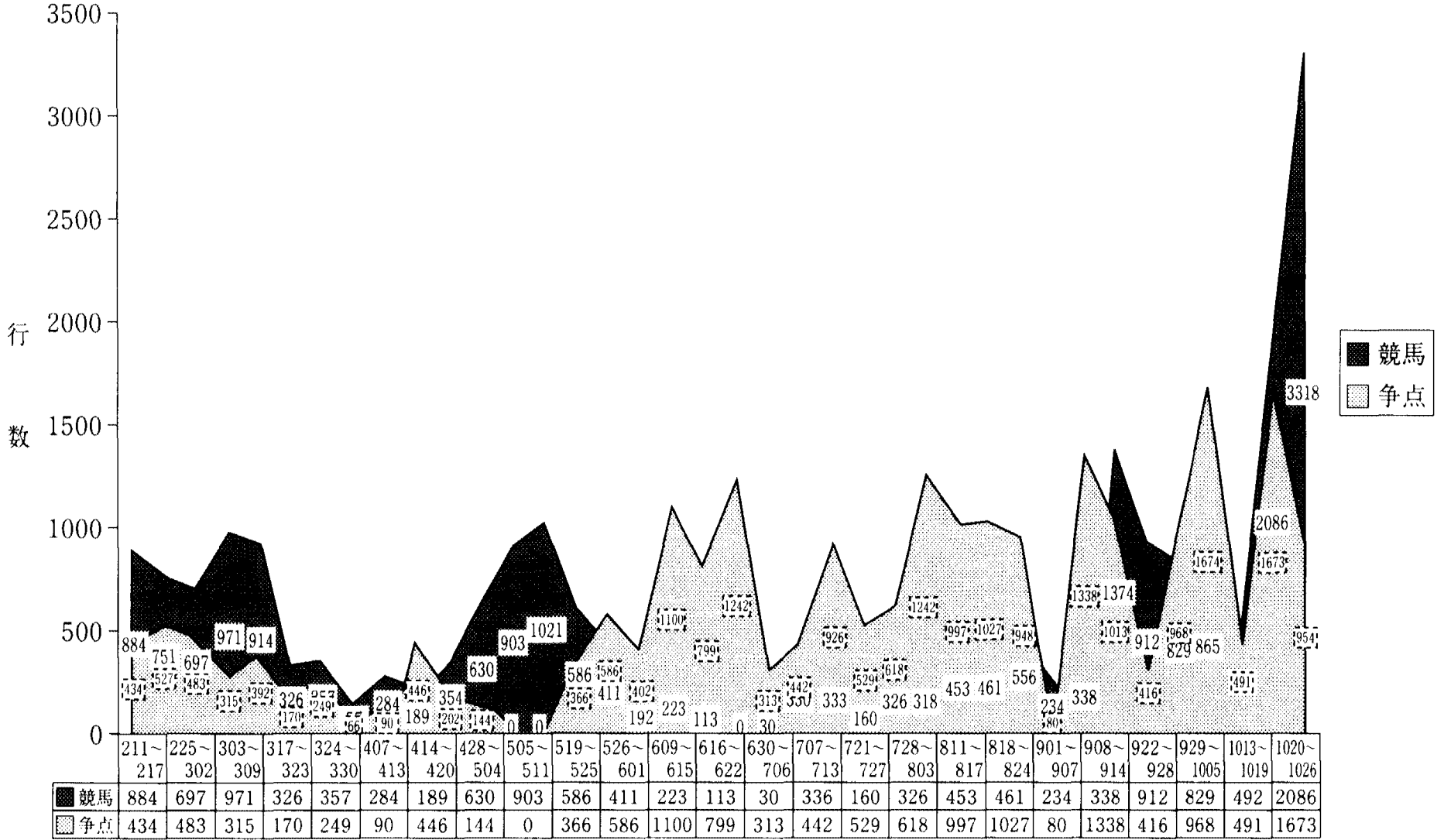
両者が重なっていない期間は、予選も終了し全国大会が開催される間である。即ち、この期間は政党の選挙政策形成期に当たるといえるだろう。地方では州党大会を開き、全国大会では選挙政綱⁽³⁰⁾が決定される。

両者は異なるアリーナで展開される事件であり、キャンペーンに対して各独自の機能を持っていると思える。

対象公職変数（図表V-4）とニュースソース変数（図表V-5）と両従属変数との関わりを二つのクロス表で示してある。

図表によると、大統領では争点報道がやや強く、議会では競馬報道がか

図表V-3 競馬報道と争点報道



なり強く、州政府では争点が、地方政府では競馬が、裁判、選挙一般、その他は争点報道ばかりである。ということは、議会選挙の報道はほとんどがジャ紙であり、大統領選挙の報道はニュース・サービスがほとんどであるので、この傾向はニュース源に関係しているかもしれない。

図表では果たしてジャ紙の報道において競馬報道が多く、AP等のニュース・サービス提供記事では争点報道が多かったことを示している。

(2) 何が競馬報道を決めるか

さらに競馬報道変数を従属変数とする候補者に対する多変量解析を行う(図表V-6)。というのは、競馬報道はまさに候補者の勝敗をめぐる報道であるからだ。図表によると、競馬報道に有意な寄与をしている候補者は本選挙で挑戦者となったドールとヘーゲルであった。

予選の挑戦者では、フォーブスが最も高かった。

このことは、新聞が挑戦者の有力相手に追いつく様子を好んで描こうとしているということを示している。

(3) アジェンダ

アジェンダでは争点間の順位と争点の重要性に対する候補者間の合意状

図表V-4 競馬 争点 X公職など(%)

	競馬	争点	N
大統領	48	52	25,178
議会	70	30	11,394
州政府	42	58	1,726
地方政府	100	0	54
裁判所	0	100	468
選挙一般	0	100	197
その他	32	68	7,997
合計	50	50	47,014

図表V-5 競馬 争点 Xニュース源(%)

	競馬	争点	N
LJS	56	44	17,898
AP	46	54	29,116
合計	50	50	47,014

図表V-6 競馬報道への候補者の回帰

	B	β
(定数)	9.42	
CLINTON	0.13	0.07
DOLE	0.26	0.17
PAT BUCHANAN	0.21	0.07
FORBS	0.79	0.14
GRAM	0.84	0.09
ALEXANDER	0.81	0.10
HAGEL	0.39	0.21
NELSON	0.33	0.15
R ²	0.18	

有意水準はドールを除きすべて0.01以下

況がメルクマールとなる。

まず全記事での争点順位を調べたものが図表V-7である（ここでの争点は実質的政策のみである）。図表によると、言及行数が大きい順に言うと、税金—住民投票—宗教・中絶—福祉—パーソナリティなどという順番になる。

次に、候補者のアジェンダを調べるために、候補者言及行数と争点行数の相関係数を見てみた。図表V-8がそれである。

図表によると、大統領候補者間でわずかに争点として合意が見られるものはパーソナリティであろうがクリントンの係数が低すぎる。その他の争点では、税金=ドール、福祉=クリントン、社会問題=クリントン、経済問題=クリントンというように一方のみに相関が高い状況である。いかに96年の大統領選挙が政策争点の争いのすれ違いが多く、話題性に乏しく興味をそそらなかつたかということをも物語っている。

上院候補者間では争点合意があるものは、予算関係と党派性である。この二つの問題ではネ州の選挙ではまともな議論が見られたのである。

図表V-7 アジェンダ行数

税金	5,093	1
住民投票	5,068	2
宗教・中絶	4,215	3
福祉	4,038	4
パーソナリティ	4,029	5
社会問題	3,931	6
少数派	3,335	7
予算関係	2,117	8
外交	1,898	9
経済問題	1,622	10
利益集団	1,454	11
イデオロギー	1,221	12
党派性	747	13
大きな政府	467	14

図表V-8 候補者とアジェンダ ピアソンの相関係数

	DOLE	CLINTON	HAGEL	NELSON
税金	0.17	0.03	0.06	0.07
住民投票	-0.12	-0.12	-0.06	-0.05
宗教・中絶	0.01	-0.10	-0.04	-0.01
福祉	-0.02	0.16	0.01	0.02
パーソナリティ	0.24	0.08	0.09	-0.01
社会問題	0.03	0.18	-0.06	-0.04
少数派	-0.02	-0.04	-0.04	-0.04
予算関係	0.02	0.02	0.15	0.26
外交	0.04	0.08	0.04	-0.02
経済問題	0.05	0.16	-0.02	-0.01
利益集団	0.00	-0.01	-0.01	0.00
イデオロギー	0.04	0.01	0.01	-0.02
党派性	-0.05	-0.04	0.21	0.40
大きな政府	0.04	0.03	0.13	0.02

要 約

第一に、メディアは大統領と、政治家は選挙と議会に、地方政府集団は州・地方選挙に、連邦政府関係は大統領に、議会関係者は議会に、という形で、各利益集団は各々特化された対象公職を持っている。興味を引くのは、ネルソンが財産税をめぐる影響を受ける職能団体からの影響を直ちに示していることである。

第二に、記事行数を決める要因として、中央（大統領）と地方（議会＝上・下院）を区別するアメリカの政治文化と、それを一緒に表現する中央・地方合わせて全選挙記事は、2月から11月までの期間を間段なく埋めている。なお、行数の決定因は、公職—候補者—争点と三つ考えることができる。

第三に、バイアスについては、(1)大統領については予選の有無が報道量に影響しているが、その好意性は、ポルなどの実態によると言わざるを得ない。(2)上院議員選挙でも予選の有無によって違いがあるが、勝者ヘーゲルに量的・質的に偏っており、これが新聞の推薦（ネルソン）と異なっていた、という点に特徴がある。(3)下院選挙では（記事の内容の悪さにも関係して）現職優位の傾向が見られた。

第四に、大統領選挙と議会選挙では共通した争点も多いが、違いもある。とりわけ議会選挙では、かなり均衡予算と「党派性」で突っ込んだ議論があった。州・地方選挙では「住民投票」がでて来るのが米国独自のものであった。

候補者も争点と関係があり、(1)現職対挑戦者というクリントンとドールの立場の違いを示すものなど、(2)議員候補者はヘーゲルが大きな政府問題を、ヘーゲルとネルソンが党派性問題を選挙終盤へ向けての争点に高めていったことが分かる。

第五に、競馬報道は、メディアが有力な挑戦者が本命に追いつく様子を描こうとするとところから生ずる。

第六に、競馬報道の分析では、《競馬》と《争点》が重なっていた時期（予選，本選挙期間）とそれ以外の時期があり，どうもジャーナル・スター本紙とニュース・サービス記事（争点）の違いが反映しているようだ。

最後に，アジェンダにおいては，大統領では争点のすれ違いが多くて面白くない。一方，上院候補者間では争点合意があった。

全体としての講評を加えると，結局ネブラスカ州では，国政選挙と州以下の選挙（上院・下院を含む）の古い区別の《現代版》を闘ったのだろうか？

(1) 拙稿「1996年アメリカの上院議員選挙—ネブラスカ州の事例から」（「香川法学」第17巻第2号，平成9年9月）。97年5月の選挙学会の報告をもとに公表されたもの。ひきつづき本論文が出るまで2年近く間延びしたが，途中大病を患い，関西大学の三宅一郎，慶応大学の小林良彰両教授，そして私の妻他多くの人々の援助で，私は生還したし，論文も生還した。記して感謝したい。尚残ったデータは，CBSとローカル局の定時ニュースであるがいずれ論文化する予定である。

(2) A=01 B=02 C=03 D=04 E=05

(3) 変数化した候補者たちは次のとおり。

BARRET BEREUTER CHALLENGER CHRISTENSEN CLINTON COOMBS
DAVIS DECAMP DOLE FORBS GORE GRAM HIRALLY HAGEL INCUM-
BENT KEMP LAM NELSON PAT BUCHANAN PEROT POWELL ROBAK
ROBIN DOLE STENBERG WEBSTER

(4)

記事種変数		中央との関連	
競馬		12.00	政党
2.00	争点	13.00	選挙一般
3.00	利益集団	14.00	予選
4.00	党大会	15.00	副大統領
5.00	州地方選挙	20.0	その他
6.00	(テレビ) 討論	-1.00	反中央
7.00	第三党	0.00	どちらでもない
8.00	住民投票	1.00	少しあり
9.00	立法	2.00	あり
10.00	議会選挙		
11.00	大統領行動		

(5) 登場した利益集団を公職に関係なく示す。「キリスト教連合役員は，州の共和党との価値を共有すべき，と」，Aug. 1, Lincoln Journal Star（以下すべて新聞記事はここが出所なので省略する），「ネルソンはプロライフ集団の支持を失う」，Aug. 3, 「ネブラスカプロライフは上院選挙ではネルソンとヘーゲルを支持」，Aug. 5, 「プロライフは二重推薦を確認」，Aug. 6, 「ドールの批判は教員組合を脅かす」，Aug. 17, 「パウエルは共和党の防衛政策を持ち上げる」，Aug. 21, 「煙草は戦闘準備」，Aug. 24, 「共和党は少数派票のために戦うとジャーナリストにいう」，Aug. 24, 「煙草攻撃にもかかわらず民

主党は煙草献金を受ける」, Aug. 25, 「労働代表は、労働者の未来はクリントンとともに安全と」, Aug. 27, 「労働リーダーが大きな役割」, Aug. 29, 「ドールは煙草の補助を受けたパックの一人」, Jul. 6, 「ドールの大会欠席は NAACP リーダーをいらぶかせる」, Jul. 9, 「公民権グループは自分をはめようとしている、とドール」, Jul. 12, 「全国ライフル協会員はドールからシフト」, Jul. 19, 「キリスト教連合は共和党を不当に援助したかどで非難される」, Jul. 31, 「リベラルは若者にうそをついている」, June 3, 「クリントンは酒造業者にテレビラジオアド禁止要請」, June 15, 「ドールはミシガン農民のセンスがレッドテープを取りかえる、と」, June 21, 「プロチョイス共和党が政党に署名運動」, June 25, 「ドール、クリントンはテロをキャンペーンの話題にする」, June 30, 「プロライフ集団はネルソン支持を止める」, Oct. 1, 「共和党は民主党への組合支持を攻撃」, Oct. 5, 「環境集団はクリントンを支持」, Oct. 6, 「テレビ討論＝特殊利益集団のカネの新しい入り口」, Oct. 6, 「ロビストは政党とつながっている」, 「キリスト教連合が投票の指針を配る」, Oct. 23, 「政府は煙草支持を続ける」, Sept. 8, 「集団がドールに保守であれと警告」, Sept. 14, 「ドールの勝利は奇跡が必要だーパット・ロバートソン」, Sept. 15, 「全米警察団体がクリントン支持」, Sept. 16.

- (6) メディア記事は例えば次のようなものがある。「クリントンはドールとテレビただ時間で合意しつつある」, Aug. 3, 「タイム誌はクリントンを最高権力保持者の男に指名する」, June 10, 「ネットワークは、勝利者を予測しないように頼まれる」, Nov. 1, 「新聞は大統領候補を推薦する」, Oct. 22, 「他社は党大会のテレビ時間を占領」, Sept. 12.
- (7) ネブラスカの立法者は「特別選挙を全部郵便でやる方法に承認を与える…」という記事。Feb. 21. 州教育委員会の選挙の関心を高める。Apr., 15. 州憲法改正について不適切な用語があるという担当者の発言。May 3. NRD 選挙人の該当選挙区がどこなのか、なにをするところか、という啓発。May 6. 州の登録有権者の 34% しか投票しないだろう——州務長官。May 10. 州南東部教育委員会候補者の予選について（「教育の質」の訴えも）。May 13. 女性の投票率を上げるために。Oct. 22. 投票所で貴方の声を聞かせるのは大衆の面前でしゃべるようにこわいことだと思っていはいないか、——委員長。Oct. 22.
- (8) 共和党＝ドールを、煙草が共和党キャンペーンへの資金提供者だと非難すれば、民主党もまた煙草資金につかっているし、党はそれを返すつもりはないし、もらうのをやめるつもりもない、と。Jul. 6.
- (9) 賭博の拡大、または廃止の投票は今年には出来ないが、次回（1998）に問えると答えた判事の発言など。Oct. 26.
- (10) 本文では出さなかったが、副大統領に関する記事は次のようなものがある。「パウエルの考慮」, Mar. 14, 「ベロイターはチェイニーを副大統領に示唆」, Mar. 17, 「ドールは副大統領キャンペーンを決定的なものとする」, May 14, 「副大統領探しは詳細な質問紙から」, June 16, 「ドール＝中絶は、副大統領へのリトマステストではない」, Jul. 2, 「ドールの副大統領候補者として 89 歳の政治家が名乗り」, Jul. 9, 「パウエルは尚ドールに？である。」, Jul. 11, 「ドールは副大統領候補者決定間近」, Aug. 8, 「共和党ベテランが、代表が副大統領指名を欲する」, Aug. 8, 「古道具を古道具に」, Aug. 9, 「ケンプはドールと、相違に関わらず手を組む」, Aug. 10, 「ケンプを選ぶのにドールは「HAIL MARY」を投げる」, Aug. 10, 「ケンプの選択は政党統一の証拠と歓迎される」, Aug. 11, 「州共和党はケンプを歓迎」, Aug. 11, 「ケンプは彼の新たなパートナー・

ドールに多くの刺を投げる」, Aug. 11, 「ケンプは「野党時代」から戻る」, Aug. 11, 「ケンプは民間のカネ」, Aug. 14, 「議会女性, ペローの副大統領候補者にはならない」, Aug. 16, 「ケンプはフットボールのプレイ中に軍現役から除外」, Aug. 18, 「共和党はケンプが一時攪乱した都市でポイントを稼ぐ」, Aug. 19, 「ペローは保護主義者のチャオトを改革党の副大統領候補者として指名」, Sept. 11, 「ドール, パウエルは選挙戦に「酔」を」, Oct. 11。

- (11) 以下は、ジャ紙の第三党に関する州内外の記事である。「ペローは出馬中のようで」, Mar. 19, 「ペローは出馬するということを除いてなんでもする」, Mar. 24, 「無所属は敗北を意味しない—ホッパー発言」, Mar. 24, 「第三党は秋の選挙をやっつける」, Mar. 25, 「グリーン挑戦者」, Mar. 30, 「ラムは第三党指名を求める」, June 2, 「11人の書き込みがデカンプを候補者に」, June 10, 「ネルソンは決定するだろう」, June 11, 「自然法政党が被選挙権獲得」, June 12, 「ネルソンはデカンプの運命における彼の役割を考える」, June 13, 「ステンバーク—指名法が間違っているだろう」, June 22, 「ヘーゲルはリベルタリアン党の指名承認」, June 26, 「ラムは大統領選挙に出馬」, Jul. 10, 「ネブラスカ改革党参謀——ペローは大統領職に最適」, Jul. 13, 「ラムは、改革党の候補者として第二位は受けない、と」, Jul. 13, 「DAVID TAKES ON GOLIATH」, Jul. 15, 「自由党事件は裁判所の公聴会否定される」, Jul. 18, 「ラムは改革党がペローを見捨てるように要求」, Jul. 19, 「改革党員が投票をミスしたという」, Jul. 19, 「デカンプ」, Jul. 20, 「ネブラスカは改革党にジョイン」, Jul. 21, 「ペロー, ラムは改革党指名へ賛成」, Jul. 21, 「不満選挙人は改革党集会に参集」, Jul. 22, 「ペローは若者に訴える」, Jul. 26, 「ラムは改革党指名の為にペローと闘う」, Jul. 28, 「共和党はデカンプが上院選挙辞退反対」, Jul. 30, 「ペロー, ラムは改革党の候補者を争う」, Jul. 30, 「署名は改革党の投票資格獲得」, Jul. 31, 「指導者たちが改革党支配のため戦う」, Jul. 31, 「共和党のZSHAMはラムの副大統領候補者」, Aug. 8, 「自由党改革集団は自らの党大会を準備」, Aug. 12, 「ペローとラムは二大政党を批判」, Aug. 12, 「改革党の請求に不正発見」, Aug. 13, 「ペローは改革党の承認を得る価値がある—議長いう」, Aug. 18, 「ペローは大政党を攻撃し改革党のキャンペーン開始」, Aug. 19, 「改革党はここに存在しているか?」, Aug. 20, 「政党は熟慮する」, Aug. 22, 「アイオワのテレビは第三党候補者を報道しないよう戦う」, Sept. 21, 「デカンプはネルソン, ヘーゲルの将来のテレビ討論阻止要求」, Oct. 2, 「ペローは、クリントンが再選されるなら、2番目のウォーターゲート事件だと有権者に警告する」, Oct. 26, 「ペローはクリントンの批判に持ちこたえる」, Oct. 27。
- (12) P. クームは、下院議員選挙に出るつもりなら、リンカーンのラディオショウをやめよ、と共和党が要望したことに端を発する。Feb. 27。
- (13) 全国の下院報道については次のようなものがある。「ゲッパートは中葉を学ぶ」, Oct. 6, 「下院新人」, Oct. 18, 「共和党は、税と州権へ焦点」, Oct. 20, 「共和党の多数派難しい：下院の選挙日の戦いはドローに終わる」, Oct. 22, 「再試合の議会：上院の2, 下院の55」, Oct. 25, 「ギングリッチは、97の事業をバックアップする」, Oct. 26, 「現職のやばさ」, Nov. 2, 「共和党は遅まきながら議会に進撃」, Nov. 6。
- (14) 後で明示的に出てくる争点とは別に記事で言及された争点を一括して出しておこう。「ニューハンプシャー保守派は決められない」, Feb. 18, 「パットはクークラックスクランの活動家を回顧」, Feb. 24, 「公衆の恐れに演じる」, Feb. 26, 「ゴールドウォー

ターとレーガンがパットのモデル」, Feb. 27, 「候補者：キューバは罰せられるべき」, Feb. 26, 「ドールはまだ未熟」, Feb. 26, 「フォーブスが父から税還付を受ける」, Mar. 7, 「パットは分裂させる」, Mar. 10, 「相違より類似性が多い」, Mar. 23, 「ドールーホワイトハウスの論点は防衛問題だ」, Mar. 22, 「ヒスパニックは投票を要求」, Mar. 24, 「ドールはクリントンの法任命者批判」, Apr. 20, 「ネルソンは共和党のラジオアドの示唆を拒否」, Mar. 1, 「口のへらさないパットはその言葉で判断される」, Mar. 3, 「共和党は福祉でクリントンを叩く」, May 20, 「フォーブスはドールの税プランを劇的と見る」, May 27, 「ドールは達成できる立法議題を示す準備」, June 23, 「民主党は家族第一議題を促す」, June 24, 「健康が年齢より大事」, Jul. 21, 「知事ウィルソンは、プライムタイムから首」, Aug. 12, 「共和党原理を支持」, Aug. 13, 「クリントン参謀は、煙草取り引きが監視されていると」, Aug. 28, 「メディケア」, Oct. 19, 「ケリーが IRS 事業改善委員会共同委員長に就任」, Sept. 11.

- (15) 大統領の場合のキャンペーン記事は次のようなものである。(ここで記事を分類したものは、段落単位ファイルではなく、記事単位であるので集計の単位となった本文とは異なる。見だしがでているので使いやすかった。)

「フォーブスがアイオワにチャンスをくれと訴える」, Feb. 12, 「フォーブスはドールと類似のポル戦術を取る」, Feb. 12, 「パット幹部、差別集団との関係で辞任」, Feb. 16, 「候補者は税、仕事、貿易で火花を散らす」, Feb. 17, 「候補たちは雪のニューハンプシャーを歩く」, Feb. 18, 「グラムは、ドールが共和党を連帯させると語る」, Feb. 19, 「共和党は予選の夜に猛打する」, Feb. 20, 「クリントンがニューハンプシャーの唯一の勝者」, Feb. 22, 「ドールは参謀長をはずす」, Feb. 26, 「フォーブスがアリゾナで1位」, Feb. 28, 「フォーブスはワシントンへの道を買っていることを否定」, Feb. 29, 「パットは尚樂觀」, Mar. 2, 「アレキサンダーはフロリダで負ければ辞退」, Mar. 5, 「ドールはキャンペーンで前を見始めた」, Mar. 5, 「先行ドールに険しい道が」, Mar. 7, 「ふたりのドールのライバル落伍。フォーブスはケンプの支持える」, Mar. 7, 「ドールは勝ちを見る、パットは改める、フォーブスはフロリダをねらう」, Mar. 10, 「キャンペーンはネブラスカを省略」, Mar. 11, 「パットはドールとの戦いを新規に」, Mar. 11, 「ドールは必死のパットとフォーブスからの敗北を警告」, Mar. 12, 「クリントンは共和党をしかる一環境税控除提起」, Mar. 12, 「フォーブスは辞退しドールを支持」, Mar. 14, 「ドールー予算の議論は新大統領を必要とする」, Mar. 19, 「クリントンは自由貿易を恐れないという」, Mar. 19, 「あと3つでドールは共和党の指名」, Mar. 27, 「ヒラリーはカリフォルニアのドールのラリーを率いる」, Apr. 14, 「市民ドール」シカゴでスタート」, May 17, 「上院に残した時間で議題を描く」, May 20, 「ドールはクリントンの発言を「こそ泥」と」, May 21, 「ドールは厳しい福祉立法を約束」, May 22, 「ロビンドールはみずからの生活を導く」, May 26, 「ドールは家庭内暴力を罰すると」, May 31, 「クリントンのリーダーシップはジグザグ、とドール」, June 8, 「市民ドールは、進歩派ぶるクリントンに焦点を当てる」, June 13, 「パウエルは、共和党のためのキャンペーンプランはない、と」, Jul. 9, 「ドールは税プランを公表へ」, Aug. 17, 「クリントンは硬い共和党郡でアジェンダを訴える」, Aug. 31, 「クリントン、ドール未来への戦い」, Aug. 31, 「フォーブスは15%減税を迫る」, Sept. 6, 「ファーストレディがアイオワに立ち寄る」, Sept. 11, 「候補者は教員とネガ・アドを巡り衝突」, Sept. 13, 「ドールの新しい麻薬闘争スローガン」, Sept. 19, 「ドールはメディア

にポルだけではなく、薬害報道もするよう要求」, Sept. 20, 「クリントンとゴアはバスキャンペーンで北西部」, Sept. 20, 「候補者はどこから資金寄付が来るか気にするのか」, Sept. 21, 「ドール氏はクリントン氏の健康補助改革を批判」, Sept. 23, 「キャンペーンの陥穽」, Sept. 23, 「ドールは討論へ容易」, Sept. 29, 「クリントン氏は子に依存する親へ焦点を絞る」, Sept. 29, 「ケンプは黒人票をねらいライオンの巣に入る」, Oct. 5, 「ドールは閣僚について示唆」, Oct. 8, 「本物ボーゾー指摘は笑い事ではない」, Oct. 9, 「ボーゾーは出て行け」, Oct. 9, 「クリントンはインターネットアクセスの拡大に予算を望む」, Oct. 11, 「ドール, クリントンに厳しくすると」, Oct. 18, 「ドールはクリントンの倫理を批判」, Oct. 19, 「熱狂は候補者を掻き立てる：ドールはあなたが好きかどうかにかかわらず選挙に勝つと約束する」, Oct. 23, 「クリントンは安全に闘う；ドールはペローの機嫌をとる」, Oct. 24, 「怒ったドールは、『目覚めよ。アメリカ。』と言う」, Oct. 25, 「クリントンは、共和党に伝統的に傾く地域の有権者にいいよる」, Oct. 25, 「クリントンは大学学生にチューターが必要だ」と」, Oct. 26, 「ドールは大統領に怒っている（メディア）」, Oct. 26, 「行く時間である」と、ドールは、クリントンを愚弄する」, Oct. 27, 「クリントンは最終の選挙の出撃と同時に出発する」, Oct. 30, 「ドールは、景気後退を警告して最後の押しを開始する」, Oct. 31, 「未決定の州はドールの目標」, Nov. 1, 「ドールは、96時間キャンペーン爆撃に乗り出す」, Nov. 1, 「フォード、ブッシュはドールの発進の最後の一押し」, Nov. 2, 「ドールは、ヘーゲルを押し上げるために州を訪問する」, Nov. 3, 「キャンペーン'96年のスナップ」, Nov. 4, 「ドール、クリントン、最終の闘い」, Nov. 5。

上院議員の場合は、キャンペーン記事の実例は次のようなものであった。

「ネルソンは朝食会でスピーチ」, Mar. 22, 「共和党はラジオアドで州を傷つけることを非難」, Mar. 26, 「ミシシッピ上院議員がヘーゲルのためにキャンペーン」, Apr. 10, 「市長がヘーゲルを上院議員に最善の選択と支持」, Apr. 11, 「ヘーゲル派は支出が記録的」, Apr. 30, 「ヘーゲルは上院」, May 16, 「共和党はヘーゲルの下に結集」, May 16, 「ヘーゲルは\$100万を超す」, Apr. 16, 「ステンバーグは予選の相手より争点にこだわる」, May 2, 「知事は州の無党派伝統を引く」, May 18, 「ネルソンは厳しい選挙が待つことを知る」, May 22, 「ヘーゲルは財界に演説」, June 18, 「上院選挙では相違が明確化、ヘーゲルは郡共和党で発言」, Jul. 12, 「ネルソンは家庭的なネブラスカの日を楽しむ」, Jul. 29, 「ヘーゲルは牧畜郡の投票を集める」, Aug. 7, 「党大会はヘーゲルにキャッシュを」, Aug. 15, 「労働日のイベントは行楽客と政治家を呼ぶ」, Sept. 3, 「ネルソンは予算をテーマに語る」, Sept. 19, 「ニックスー共和党はヘーゲルに勝ってほしい」, Oct. 10, 「共和党を纏め上げる：西の地方を回っている時組織を強調する。ヘーゲル。」, Oct. 21, 「有名人の権力：ネルソンがやる、多くの種々の役割は満たしづらい」, Oct. 24, 「上院議員：ネルソンは民主党のラインを歩かない」, Oct. 30, 「上院キャンペーンは終わりに近づく」, Nov. 1, 「上院選挙結果は投票率に依存する」, Nov. 4, 「対決」, Nov. 5。

キャンペーンの組織問題も言及されていたが、以下のとおり(公職は格別に問わない)。「オマハ集会でドールは犯罪に厳しくという」, May 12, 「ドールは友人の助言を求める」, Apr. 3, 「共和党参謀メイタリンはドール陣営を引く」, Apr. 13, 「クリントンの二つの長い攻撃」, May 9, 「ヘーゲル参謀誉められる」, May 26, 「クリントンのキャンペーン戦略一目には目をの戦い」, May 13, 「ドールは地理的戦略に依存す

る」, June 22, 「キャンペーン計画の変更」, Sept. 21, 「ドール派はクリントンの倫理問題に焦点」, Oct. 12, 「ペローはドールを拒否：彼はやめないとやっている」, Oct. 25。

(16) 選挙一般の関係では例えば次のようなものである。

「学生投票者」, Jul. 22, 「リンカーンの学生はクリントンを選ぶ」, Oct. 30, 「55%の有権者が投票において予想される」, Oct. 30, 「大方登録された有権者の半分は投票に行かない、とエキスパートは予測する」, Nov. 1, 「いかほどかがまだ未決定である」, Nov. 3。

(17) スキャンダル関係では、以下のようなものがでてくる。「アレックスの会計係が利益関与を示す」, Feb. 15, 「ヒラリー・クリントンの旅費問題」, Feb. 17, 「パットは、72年の宣誓戦術を保持する」, Feb. 19, 「クリントンの商売仲間有罪」, May 29, 「ホワイト・ウォーターは終わっていない」, May 30, 「旅費が457百万ドル」, June 6, 「ホワイト・ハウスは、共和党についての300人のファイルがあると認める」, June 8, 「FBIは秘密の記録の新チェックを指示」, June 9, 「ドールはクリントンをFBIファイルの件でしかる」, June 9, 「FBIファイル公聴会がある」, June 11, 「FBIファイルの要求は不当とCALLされる」, June 15, 「HDLは調査妨害—委員発言」, June 16, 「民主党は調査に怒る」, June 17, 「ヒラリー・クリントンは記録をほとんど覚えていない」と、June 18, 「ホワイト・ウォーター審理はクリントンを叩く際」, June 20, 「ホワイト・ウォーター検事がFBIファイル議論を示すためにOK」, June 22, 「法曹はヒラリー・クリントンを召喚しないと決定」, June 22, 「ホワイト・ハウスは、その倫理に失敗—ドール」, June 23, 「上級裁がクリントンのセクハラを検討を始める」, June 25, 「ホワイト・ハウスは文書公開OK」, June 26, 「FBIファイルの数は700に」, June 26, 「元ホワイト・ハウスカウンシルがFBIファイル騒ぎの責を取る」, June 27, 「2年前上院は安全に関心があった」, June 28, 「共和党はホワイトハウスに麻薬の詳細を要求」, Jul. 19, 「エイジェントのメモがホワイトハウス, FBIをかき回す」, Jul. 26, 「労働暴徒証言について、クリントン助言者について語る」, Jul. 26, 「助言者はHDCLからのプレッシャーを思い出す」, Aug. 6, 「クリントンはスキャンダルで戦略家を失う」, Aug. 30, 「民主党は共和党をギング氏の倫理問題をはばんでいると非難」, Sept. 21, 「ギングリッチは倫理議論を…」, Sept. 23, 「ホワイト・ウォーター恩赦は不人気」, Sept. 25, 「ギングリッチ氏への倫理不満は尚生きている」, Sept. 29, 「ホワイト・ウォーター調査は2,300ドル」, Oct. 2, 「クリントンは討論に備えながら恩赦について語る」, Oct. 5, 「共和党の名前が消された上でFBIファイルが収集された」, Oct. 5, 「ギングリッチはクリントンの報道をこき下ろす」, Oct. 23, 「候補者は仕事の取引上のいやみを取引する」, Oct. 26, 「FDA長官の旅行レコードに発見された違法性」, Nov. 2。

クリントン=民主党への外国献金問題では次のようなものがある。「資金提供者のホワイトハウス訪問は問題を持っている」, Nov. 1, 「クリントン資金集めは、同じ名前の人のため怪しい」, Nov. 2, 「担当者は、クリントンおよびインドネシアの交わされた取引……」, Nov. 5, 「ドールはキャンペーン寄金についてクリントンへの圧力を強める」, Oct. 20, 「外国の援助：インドネシアの家族は民主党と深くつながっている。」, Oct. 20, 「インドネシアの寄贈者はアーカンソーのローン・ビジネスにリンクしている」, Oct. 24, 「複数のデモクラット寄贈者が同じアドレスを与える。雑誌リポート。」, Oct. 27, 「クリントンへの台湾の結合」, Oct. 29。

ゴシップに関しては次のようなものがある。「75人以上のクリントンへの献金者がホワイトハウスに泊まる」, Aug. 25, 「ホワイト・ハウスの本の著者は民主党からSHOTSを取る, 保守派」, Jul. 1, 「ヘーゲルはケリーを上院の発言で批判」, Jul. 11, 「ネルソン活動家はごたごたに捕まる」, Jul. 23, 「新本—ヒラリー・クリントン過去から助けを求める」, June 24, 「高所からの影響」, June 26。

- (18) 大統領の政策記事は次のようなものである。「自分の言葉で生きる男」, Feb. 15, 「ドールはアフターマティブアクション議論を拡大」, Mar. 25, 「ドールはフォーブスのフラットタックスプランに向かわされることを拒否」, May 23, 「スターウォーズの争いが議会に戻る」, May 26, 「ミシガン知事はクリントンを福祉で攻撃」, May 26, 「ドール＝プロライフ政綱は寛容をと」, June 7, 「候補者は減税ナイフを振るう」, June 9, 「ドールは、煙草は規制するべきでない」と, June 14, 「進歩派は汚い言葉でない」, June 22, 「クリントン, 性犯罪者をねらう」, June 23, 「コープはドールをニコチン問題で非難」, June 23, 「灰から議論が起きる」, Jul. 3, 「ドールはクリントンを増税批判」, Jul. 14, 「共和党知事会はドールの中絶政綱妥協を承認」, Jul. 14, 「クリントンは、福祉権限を州政府に移す約束」, Jul. 17, 「ドールは「機会奨学金」を提案」, Jul. 20, 「ドールは税提案に近づく」, Jul. 22, 「ドールはIRSの削減を考える」, Jul. 26, 「共和党の一部は反中絶立場に反対」, Jul. 26, 「共和党の3分の1は中絶反対政綱に反対」, Jul. 29, 「クリントンは、テレビ産業と子供番組で合意」, Jul. 30, 「ドールは、その税改革が明らかになるにつれ、過去の発言が漁られる」, Aug. 3, 「ドールは93年税上限の廃止を提案」, Aug. 4, 「ドールは15%減税提案用意」, Aug. 5, 「ドールはレーガンが始めた仕事を終わらせる」と, Aug. 6, 「SECOND LOOKを求める」, Aug. 6, 「ドールは中絶寛容政綱にこだわらない」と, Aug. 6, 「ドールは中絶紛争の中の統一を求める」, Aug. 7, 「ドールはIRSを標的に、アメリカを税専制君主から自由にする」と約束」, Aug. 10, 「ドールの税プランは多くの人に利益を—分析者いう」, Aug. 10, 「典型的政治的修辞を切る」, Aug. 16, 「共和党の税プランは経済を壊す—クリントン言う」, Aug. 18, 「年齢問題はキャンペーンで賢い戦い」, Aug. 20, 「10代の麻薬利用が大統領選挙の最中に増加」, Aug. 21, 「10代の煙草撲滅」, Aug. 23, 「子供の煙草追放が追求される」, Aug. 24, 「クリントンは妻の本をかばう。ドールの「村」は彼を癒す。」, Aug. 25, 「ドールは麻薬中毒者を前線に送ることを約束」, Aug. 26, 「第二次大戦対ベビーブーマー」, Aug. 30, 「大きく勝てしかし安全に演じる」, Aug. 31, 「ドールの価値観の強調」, Sept. 11, 「共和党はクリントンのイラク政策を激しく攻撃」, Sept. 13, 「民主党は犯罪争点を共和党から取る」, Sept. 17, 「ドールクリントン氏は経済神話を拡大」, Sept. 22, 「クリントンの派遣計画は賛否」, Oct. 3, 「クリントンは、麻薬メモは戦略を壊す」, Oct. 6, 「社会保障の変化が静かに調査」, Oct. 10, 「クリントンはテレビ暴力シーンの低下報告に喜ぶ」, Oct. 16, 「ファーストレディ：すべての子供に技術を」, Oct. 20, 「クリントン10代運転者に麻薬テストを」, Oct. 20, 「経済の現実の力：エキスパートはグリーンスパンに経済の成功を信用する」, Oct. 26, 「外交方針が不完全であるとみなされたクリントン」, Oct. 26, 「援助者は暴力の犠牲者。クリントンは言う。」, Oct. 27。
- (19) 大統領に関する選挙資金は次の通り。「ドール・キャンペーンへの苦情はネブラスカ共和党も含まれる」, June 13, 「ドールへの寄付者が不法行為で6百万ドル罰金」, Jul. 11, 「\$74,000,000……」, Aug. 20, 「ペローはキャンペーンのために政府資金をえる」,

Aug. 20, 「共和党は資金集めレースでリードしている」, Oct. 21, 「ペローは費用を下げて」, Oct. 22, 「ドールのための前資金提供者が寄金により罰金を科される」, Oct. 24。

上院議員に関するものは次の通り。「テレビは選挙資金を引き付ける」, May 9, 「ネルソンはヘーゲルより選挙資金集めでリード」, Jul. 25, 「ヘーゲルとネルソンは同じ寄付者からカネを」, Sept. 11, 「共和党, 民主党はアド出資を巡り議論」, Sept. 25。

- (20) 大統領に関する党大会関係記事は次の通り。「共和党代表はパウエル支持を望む」, Mar. 12, 「中絶支持者党大会演説」, Jul. 16, 「中絶紛争が, ドールの努力にも関わらず明確化」, Aug. 5, 「共和党大会はNO-FRILLS イベント」, Aug. 11, 「クリントンは党大会議長を指名」, Aug. 11, 「ドールとケンプはサンジェゴを嵐でとる」, Aug. 12, 「共和党はドールとケンプチームに王冠を」, Aug. 15, 「ネブラスカ共和党はゴー」, Aug. 16, 「ファーストレディは集会を盛り上げる」, Aug. 28, 「ゴアは, 民主党はクリントンの下に結集をと訴える」, Aug. 29, 「クリントンはドールとの差の波に乗る」, Aug. 30。

上院議員に関する党大会関連記事は次の通り。「郡共和党は政綱を拾う」, June 7, 「ヘーゲルの減税立場が批判される」, June 23。

とくに公職を限定しない党大会関連記事。「州共和党は政綱を決めるためにいく」, June 29, 「共和党議長は, 労組からの脅威を警告」, June 30, 「共和党はパットを党大会で制限する」, June 30, 「プロライフ代表が選定」, Jul. 1, 「誰が党大会を必要とするのか」, Aug. 11, 「大赤精神がサンジェゴに生きる」, Aug. 12, 「共和党は大きな競争, 性差, サーベイ」, Aug. 12, 「パウエルは共和党の党大会のスター」, Aug. 13, 「ネブラスカ共和党はポール結果に希望をつなぐ」, Aug. 13, 「彼らはその主張を示すために来る」, Aug. 13, 「民主党はサンジェゴに訪問」, Aug. 13, 「共和党の大きなテント」, Aug. 14, 「ドール, 信頼を取り戻すと声明」, Aug. 16, 「ドールの受諾演説がテレビの評価上げる」, Aug. 17, 「州民主党議長が民主党の多様性を求める」, Aug. 24, 「クリントンが行く: シカゴでの民主党の報道」, Aug. 24, 「ネブラスカ人が, 平和を求めて 28 年後にシカゴに戻る」, Aug. 25, 「代表は 68 年の大会を生々しく思い出す」, Aug. 25, 「民主党は 11 月を求める」, Aug. 25, 「民主党は…を目的とする: 党大会での異論者への発言を求める」, Aug. 26, 「ケリーはクリントンの業績を求める」, Aug. 26, 「代表はドールのオフベースを求める: 教員の針についてのコメント」, Aug. 26, 「代表のスナップショット」, Aug. 26, 「党大会は犯罪について開催」, Aug. 27, 「中心で演じる」, Aug. 27, 「民主党の反抗は小さく, 炎を欠く」, Aug. 27, 「代表は民主党の賛歌を歌う」, Aug. 28, 「民主党は共和党のテレビ評価を撃つ」, Aug. 28, 「ネブラスカ代表はジャクソンの福祉関心を討論する」, Aug. 29。

- (21) 人口妊娠中絶についての記事は以下の通り。「中絶争点がドールを中心から退ける」, Mar. 10, 「ステンバーグは中絶の限界を支持」, Apr. 6, 「キリスト教指導者が中絶方向へ後押し」, May 4, 「プロライフ擁護者は弁護士のカラクリを要求する」, Sept. 5, 「ドールと娘は異なる見解を」, Sept. 24, 「ケリーの投票は米国の家族の肩に重く」, Sept. 29。

- (22) 麻薬, 犯罪に関する記事は次のようなものである。「上院議員がクリントンは犯罪と麻薬に甘すぎると」, Apr. 28, 「クリントンは若者からガンを遠ざける事業要求」, Jul. 9, 「クリントンは議会の麻薬対策基金を批判」, Sept. 9, 「10 代の 18 % が薬使用(調査報告)」, Sept. 26, 「ドールがクリントンに麻薬メモを公開するよう要求」, Oct. 3, 「麻薬使用低下」, Oct. 20。

- (23) 政党記事は次の通り。「民主党は新議長を3回投票後に選ぶ」、June 8、「政党は主流から外れる」、June 23、「民主党は野心的キャンペーンプラン」、June 30、「パットは、共和党を支持せよと支持者に」、Aug. 12、「党大会は助ける、しかしドールはなお遅れをとる」、Aug. 16、「共和党報告書でクリントンが解雇で非難」、Sept. 1。
- (24) 大統領選でのテレビ討論では次のような話題があった。「アレックス、パットはアリゾナの討論に拍車」、Feb. 23、「ドール、クリントンは過熱、和平論議に関わらず」、May 9、「テレビ討論集団はペローを招かず」、Sept. 18、「クリントン、ドール氏が2回の討論で合意」、Sept. 22、「ペロー——討論冷遇は共和党を傷つける」、Sept. 23、「ペロー氏は公開討論のための訴訟に」、Sept. 24、「自信たっぷりのクリントン氏はそれでも討論に備える」、Sept. 30、「レーナーが司会者に指名」、Sept. 30、「判事がペローの討論希望を無くす」、Oct. 2、「ペローは討論参加への最後のあがきに失敗」、Oct. 5、「司会者には文句なく、PBSは？しかしレーナーが承認される」、Oct. 5、「テレビ討論のジレンマ」、Oct. 6、「ドール、クリントンテレビ討論で衝突」、Oct. 7、「議論の余地なし」、Oct. 7、「誰がテレビ討論に勝ったか」、Oct. 8、「もう一人の大統領候補者が第三党テレビ討論にちん入」、Oct. 8、「ゴア、ケンブテレビ討論に準備完了」、Oct. 9、「テレビ討論視聴者は社会問題の議論を欲した」、Oct. 9、「ゴア、ケンブは多くで対立」、Oct. 10、「クリントンの焦点はドールの選挙人獲得奪取を阻止すること」、Oct. 18。
- (25) クリントンの人格問題は次のとおり。「クリントンは中傷なきキャンペーンを望む」、Aug. 19、「ヒラリーの帰省」、Aug. 21、「ベロイターはクリントンの人格を問題視」、Sept. 10、「クリントンが健康を示す記録を紹介」、Sept. 14、「ドール派、クリントンの人格問題に突進」、Oct. 16、「クリントンはジョギング中に妨害される」、Oct. 18、「クリントンを知る：大統領は、楽しみを愛している、思慮深く、楽観的である」、Oct. 25。
- 一方、ドールのパーソナリティに言及した例は次の通り。「戦傷は尚ドールの生命を作る」、Apr. 14、「ドール顧問はドールのイメージ変換をねらう」、「戦う態度がドールを戦い続けさせる」、Aug. 15、「ドールは以前“long odds”を支持した」、Oct. 20、「プライベート、家族のドール」、Oct. 24。
- その他次の記事がある。「ある有能なキャンペーン家」、Aug. 22、「ペローの外債は偽善者の非難を引き出す」、Aug. 22、「ペローの新本は実業と生涯での成功原理を語る」、Oct. 18、「有権者は言う。人格問題は死んだ」、Oct. 28。
- (26) 大統領選以外のテレビ討論は次のとおり。「共和党候補者は共通点を探す」、Apr. 19、「ネルソン、ヘーゲルは5つの討論で合意」、May 29、「ネルソンは5でなく3回のテレビ討論を欲する」、June 1、「AP集会が討論を含む」、Jul. 31、「州祭での上院議員候補者討論中止」、Aug. 24、「ネルソンとヘーゲルのテレビ登場中止」、Sept. 10、「ネルソン、ヘーゲル氏は討論で口論する」、Sept. 30、「上院下院指導者はテレビ討論で本音」、Sept. 30、「事実が発言とどう違うか」、Oct. 7、「テレビ討論視聴率低下」、Oct. 8、「ゴア、ケンブは詳細を議論」、Oct. 10、「副大統領テレビ討論ではかつこよさも計算に」、Oct. 10。
- (27) 上院議員のアドに関する報道は以下の通り。「ステンバーグのアドが月曜に始まる」、Apr. 20、「民主党のテレビ・アドはステンバーグよりヘーゲルをたたく」、May 4、「ネルソンに対するアドを止めるよう共和党を訴える」、May 4、「政党テレビ・アドは違法すれすれ——監視集団が言う」、May 6、「ヘーゲル——民主党の新広告は共和党予選をかき乱すと」、May 8、「予選のやり取り過熱——ステンバーグはヘーゲルのクレームを

否定」, May 9, 「ヘーゲル—ポルはネガ・アドはうまく言っていないことを示す」, May 10, 「クリスチャン連合はすべてのアド・キャンペーンに終わりを要求」, May 11, 「ネガ・ポル発覚」, Aug. 3, 「争点としての税金をネルソンとヘーゲルが争点化」, Sept. 13, 「共和党のアド戦略は険しい道へ出発」, Sept. 16, 「新テレビ・アドは赤字狩り—ネルソン」, Sept. 19, 「共和党の攻撃的アドが上院議員の争いをさらに掻き立てる」, Oct. 25, 「ヘーゲル, その他の共和党は, ネルソンからインテグリティ攻撃を批判する」, Oct. 31。

(28) 大統領のアドに関する報道は次の通り。「ヘーゲルはネガ・アドに警告」, Apr. 27, 「大統領アド戦争は人格的に醜い」, May 25, 「ドールのアドはクリントンの過去のマリファナのコメントに焦点」, Sept. 21。

(29) 大統領選につき, 競馬報道は次のようなものである。「共和党の戦場は最終局面に」, Feb. 12, 「キイズが共和党テレビ討論の勝者」, Feb. 17, 「パットがニューハンプシャーでドールに差をつけるか」, Feb. 21, 「共和党の競争が間に入り 5 州が襲われる」, Feb. 22, 「フォーブスが, 第 1 位, ドールは 2 位」, Feb. 25, 「クリントンはドールを三つの新ポルでたたき」, Mar. 13, 「ドールはクリントンは僅差の選挙」, Apr. 8, 「ドールはクリントンを叩くと 55 % のポル」, May 19, 「ホワイト・ウォーターはそれほど問題でない」, June 2, 「ポルはクリントンが 19 ポイントリード, と」, June 21, 「女性選挙人がドールの成功のかぎ; 共和党が言う」, Jul. 14, 「次期大統領を捕まえる」, Jul. 24, 「ポルはクリントンがドールを超えている, と」, Jul. 20, 「減税プランは, ドールをクリントンに更に遅れをとらせる」, Aug. 9, 「ポルはクリントンが 18 ポイントリード……」, Aug. 14, 「ポルはドールが党大会ブームを得始めることを示す」, Aug. 15, 「ポル—ドールのはずみは遅い」, Aug. 16, 「ドールは最新の NW のポルを引っ張る」, Aug. 18, 「ドールは 3 つのポルで差を埋める」, Aug. 20, 「クリントンは健康保険をえやすくするための法案にサイン」, Aug. 22, 「40 代麻薬使用はクリントンのせいではない: ポル」, Aug. 25, 「穏健派はポルでクリントンがドールを引き離させる」, Aug. 29, 「ポル: クリントンは 17 ポイントリード」, Aug. 30, 「クリントンはポルで大差, 参謀の辞任にもかかわらず」, Aug. 31, 「新ポルはクリントンのリードの中にドールが割り込む」, Sept. 17, 「クリントンは連邦政府の縮小を歓迎」, Sept. 21, 「クリントン氏は 2 桁リードを労働日以来続ける」, Sept. 24, 「州の 48 % がドール支持」, Sept. 27, 「クリントンは少なくとも 3 つのポルで 18 点のリード」, Oct. 3, 「クリントンは討論に大きな差をつけてはいる」, Oct. 6, 「選挙人獲得戦」, Oct. 6, 「ケンタッキー, クリントンは少ないリード」, Oct. 7, 「テレビ討論は民主党を金持ちにする」, Oct. 11, 「クリントン支持者は選択に悩む」, Oct. 16, 「ポル: クリントンはよりいい人格を持つようだ」, Oct. 20, 「ポル: ドールの攻撃は自身を傷つける」, Oct. 22, 「アフターマティヴ・アクションは, ドールにより打ち倒される」, Oct. 29, 「州のレースは上院議員, 大統領は緊張する」, Oct. 29。

上院議員の競馬報道は次のとおり。

「ネルソンは共和党の候補者を引き離す」, Apr. 10, 「ネルソンはテレビ・ポルでリード」, Aug. 9, 「民主党は全米での上院選挙の期待を持つ」, Aug. 24, 「中央派民主党に支持される」, Sept. 26, 「ヘーゲル氏がネルソン氏とのギャップを埋める」, Sept. 27, 「ネルソンのリード拡大」, Oct. 18。

(30) 大会での政綱の議論は例えば次のようなものである。「共和党は中絶で妥協する」,

Aug. 8, 「共和党政綱は保守だが非拘束的」, Aug. 12, 「共和党きわどく任期制限を採
択」, Jul. 1, 「ドールは共和党の政綱は中絶に寛容を」と, Jul. 3。

[付録]

[付録A]

集団名	内容
態度－各種団体	アムネスティ, 銃規制, CFC, 子供活動家, コモンコース, 環境集団
態度－親中絶	プロチョイス, 中絶自由選択, 計画親協会
態度－反中絶	プロライフ
態度－たばこ	
選挙運－選挙運動関係	選挙運動組織, 資金提供者, パック
候－その他の候補者	BEREUTER, CANDS, COMBS, FORBS, FORBS AIDES, GRAM AID, INCUMBENT, RAM AID, PAT, PAT AID, PEROT AIDES, STENBERG AIDES
候－クリントン	クリントン参謀, クリントン選挙運動本部
候－ドール	ドール参謀, ドール選挙運動本部
候－ヘーゲル	ヘーゲル参謀, ヘーゲル選挙運動本部
候－ネルソン	ネルソン参謀, ネ選挙運動本部
議－連邦議会関係	議会, 委員会, 上下院議員, 上下院多数派リーダー, 少数派リーダー
職能－その他	軍人, 弁護士会, 銀行家, 農民, 賭博協会, 保険会社, 牧場主, 不動産業者, 退役軍人
職能－医者	
職能－教育関係者	ネブラスカ教育協会, 教育協会, 教育団体, 校長, 大学教授
裁判関係	弁護士, 裁判所, 法務省, 検事
財界	財界, 商工会議所, 会社, リ商工会議所, 州商工会議所
労働	職場, 労働, 労組
連邦政府各省等	官僚, CBO, 教育省, 防衛省, 農務省, 労働省, 厚生省, 環境保護局, FBI, 公正商業委員会, 連邦選挙委員会, 連邦政府, FRB, 政府, 住宅局, 歳入局, 防衛省, 国務省, 出張局, 副大統領, 大統領府
国際	中国, 外国, フセイン, インドネシア, イラク, 日本, クルド, トルコ, 米国, 世界
保守派	米保守連合, 保守投票者連合, 中道派, ブルードッグ, 人種主義者

進歩派	進歩派，進歩派支持者
利益集団	
地方政府集団	監査役，議会，郡政府，選管，地方政府，市長，州会議員，公安委員，自然保護区政府，知事関係者，警官，州政府，警察署長，執行猶予理事会，農民局，地方組織，NACOB，NADC
メディア	大統領テレビ討論委員会，経済学者，ギャロップ，知識人，テレビ局，メディア，MTV，ニールセン，ポル，大学教授，新聞，ラジオ，研究集団，調査
少数派	公民権集団，ゲイ，性，移民，INS，ラティノ，少数派一般，NAACP
各種運動団体	直接請求 411,12 支持者，活動家，政府浪費反対市民連合，批判者，犯罪支持者，ゲイ反対者，ゲイ支持者，リンカーン婦人投票者連合，州任期制限連合，反対派，請求署名派，反抗者，州議会議員報酬引き上げ反対派，支持者，税，任期制限派，任期制限反対派
その他の集団	
人々	子供，市民，老人，学生，投票者，婦人投票者，若者
政治家	ALEX, BAKERIII, BEN JONES, BROWN, BUSH, C. HESTON, CARTER, CHRIS, DAMATO, E. KENNEDY, EXON, FORBS, FORD, GEPHART, GING, GRAM, GW, HARMON, JACKSON, JONES, KANTER, KARNES, KEMP, KENNEDY, KERRY, KEYES, LBJ, LINCOLN, LOTT, LUGER, MACARTHY, MCCARTHY, MCGOVERN, MOLIANI, MORRIS, MUELLER, NIXON, NORRIS, ORR (N), PERRY, POLITICIAN, POWELL, QUAYLE, REAGAN, RENO, ROBAK, SORENSEN, SPOLI, STN, STONEY, TAYLOR
政党	議会民主党，民主党，民主党支持層，党大会代表，民主党全国委員会，DSCC，議会共和党，無所属，IPT，主流派共和党，NDN，共和党全国委員会，政党，共和党，上院民主党，上院共和党，共和党委員

[付録B]

争点	内容
予算関係	均衡予算, 予算, FAA, 支出
大きな政府	反体制, 反ワシントン, 大きな政府, 連邦政府, 信頼, ワシントン, ホワイトハウス
キャンペーン関連	演説, キャンペイン, キャンペイン組織, キャンペイン戦略, キャンペイン改革, 競馬, 勝敗
議会関係	法案, 議会, E-MAIL 投票, フィルバスター, 多数派, 議会政治, 上院
党大会関連	党大会弾み, 党大会, 政綱
裁判関連	裁判, 判事任命
討論	討論, テレビ討論
経済問題	経済, 経済発展, 所得, 雇用, 中産階級
選挙一般	選挙, 現職, 空白議席, 辞退, 再選, 登録, 出馬, 支持, 投票率, 投票, 二重指名, 指名
国政選挙	議会選挙, 下院選挙, 大統領選挙, 上院選挙, 超火曜日
州・地方選挙	知事選挙, 地方選挙, 市長選挙, 州会選挙
選挙資金	寄金, 資金, 資金問題, 資金改革, カネ, ソフトマネー, 支出
外交	キューバ, 防衛, 外交, 貿易, 自由貿易, イラク, 孤立主義, 保護主義, SDI
イデオロギー	保守主義, 中央派, 極論派, シンポ派, 穏健共和黨員, ブキャナニズム
利益集団問題	財界, 利益集団, ロビー, パック, 労働組合, 退役軍人
議題問題	議題, 争点, 政策, 公約
州・地方問題	知事, ケリー, 地方争点, 州争点, ニオブラ川問題, 予選, 公共料金, ロバック, 州会, 州議報酬, 州権
メディア	アド, メディア, ポル, プッシングポル, 予測, 政党アド, ラジオアド, ラジオ, テレビアド, テレビ暴力
少数派	強制的平等, 黒人, 差別, 少数派選挙区, ゲイ, 性差別, ヒスパニック, 移民, 少数派, 人種
その他の争点	若者, 言論の自由, 未来, 世代, 政府手詰まり, 住宅開発局, MID, MUD, NGAD, 組織, アウトサイダー, ペロー, 政治, REL, 自殺, VA, 水, 市民的義務, 州民, 反核
党派性	無党派制, 無所属, 中道共和党, 党派性

政策	教育，環境，農業，最低賃金，議員特権，利益誘導，行政改革，任期制限，都市問題
パーソナリティ	年齢，ボーゾー，クリントンの人格，ドールの年齢，ドールの人格，倫理，健康，イメージ，リーダーシップ，人格，経歴，業績，ベトナム参戦歴，第二次大戦参戦歴
大統領	任命，内閣，項目拒否，署名，拒否，大統領—副大統領関係
政党政策・組織	21世紀大統領，第三党，変化，子供，コンピューター，アメリカとの契約，経済政策，家族，包摂，党統一，共和党議題，共和党革命，政策盗り，学校制服，ビジョン
住民投票	411,12，カジノ，ギャンブル，直接請求，課税上限，署名収集，直接解職，住民投票
宗教・中絶	中絶，カトリック，プロチョイス，プロライフ，プロテスタント，宗教，宗教的自由，宗教的右派
スキャンダル	武器密輸問題，FBI ファイル問題，外国人献金，ギングリッジ問題，ゴシップ，スキャンダル，セクシアルハラスメント，ホワイトウォーター
社会問題	暴動者，アルコール，犯罪，麻薬，家庭内暴力，銃，社会争点，社会価値，たばこ，テロ，暴力，ワコー
税金	減税，平坦税，税務局，税
福祉	健康扶助，健康保険，医療扶助，社会保障，社会福祉